第　１　分　科　会（Ｎｏ．５）

１　日　　時　　令和８年３月１３日（金）
午前１０時００分　開会
午前１１時５９分　休憩
午後　１時００分　再開
午後　３時２６分　閉会

２　場　　所　　第６委員会室

３　出席委員（１９人）

主　　査	小金丸かずよし	副 主 査	大久保　無　我
委　　員	菊　地　公　平	委　　員	上　野　照　弘
委　　員	吉　村　太　志	委　　員	鷹　木　研一郎
委　　員	香　月　耕　治	委　　員	村　上　幸　一
委　　員	廣　田　信　也	委　　員	冨士川　厚　子
委　　員	渡　辺　修　一	委　　員	村　上　直　樹
委　　員	三　宅　まゆみ	委　　員	宇都宮　　亮
委　　員	永　井　　佑	委　　員	大　石　正　信
委　　員	伊　﨑　大　義	委　　員	井　上　しんご
委　　員	松　尾　和　也		
（委 員 長	泉　　日出夫	副 委 員 長	伊　藤　淳　一）

４　欠席委員（０人）

５　出席説明員

港湾空港局長	倉　富　樹一郎	総 務 部 長	吉　永　一　郎
総 務 課 長	日比野　将　隆	ｸﾙｰｽﾞ・交流課長	川　﨑　文　寛
港 営 部 長	櫛　山　　智	港 営 課 長	中　島　寛　幸
業務担当課長	末　吉　大　祐	物流振興課長	岡　本　真　一
港湾整備部長	政　徳　克　志	港湾工事担当部長	井　上　康　一
計 画 課 長	山　脇　康　雄	計画調整担当課長	中　原　崇　文
整 備 課 長	藤　本　則　彦	洋上風力拠点化推進部長	林　　秀　樹
洋上風力拠点化推進課長	白　井　伸　弥	総合拠点利用促進担当課長	麻　生　哲　男

空港企画部長	黒　岩　　亮	空港機能強化担当部長	須　山　孝　行
空港企画課長	多比良　圭　一	旅客営業担当課長	西　田　淳　哉
空港機能強化担当課長	田　中　啓　之	ｱｸｾｽ・新技術担当課長	一　田　　剛
空港魅力向上担当課長	上　田　玄志郎		外　関係職員

６　事務局職員

政 策 係 長　田　中　康　雄　　書　　記　西　嶋　　真

７　付議事件及び会議結果

番号	付　　議　　事　　件	会　議　結　果
1	議案第１号　令和８年度北九州市一般会計予算のうち所管分	議案の審査を行った。
2	議案第８号　令和８年度北九州市港湾整備特別会計予算	
3	議案第17号　令和８年度北九州市空港関連用地整備特別会計予算	
4	議案第18号　令和８年度北九州市臨海部産業用地貸付特別会計予算	
5	議案第20号　令和８年度北九州市市民太陽光発電所特別会計予算	

８　会議の経過

○主査（小金丸かずよし君）定刻となりましたので、ただいまより開会いたします。

本日は、港湾空港局関係議案の審査を行います。

議案第１号のうち所管分、８号、17号、18号及び20号の以上５件を一括して議題といたします。当局の説明はできるだけ要点を簡潔、明瞭にお願いします。なお、議案説明は着席のままで受けます。また、補職名を言われるときは、マイクが入った状況でお伝えください。なかなか私が聞き取れなくて、御協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、説明を求めます。港湾空港局長。

○港湾空港局長　委員の皆様におかれましては、北九州市の港湾空港行政につきまして日頃より御指導、お力添えいただいておりますことを厚く御礼申し上げます。

本日御審議いただく議案は、予算議案５件でございます。

港湾空港局では、成長エンジンである北九州港と北九州空港を最大限に活用し、新ビジョンの重点戦略である稼げる町の実現に向けて様々な施策を総合的に推進しているところでござい

ます。

令和８年度予算案に計上しております主な内容でございますけれども、北九州港におきましては、物流拠点化の推進に向けて港湾施設の機能強化、利用促進などの取組を推進してまいります。また、このたびの北九州響灘洋上ウインドファームの運転開始を契機に、産業用地の整備や関連産業の誘致といった風力発電産業の総合拠点形成の取組をさらに加速させてまいります。

北九州空港におきましては、開港20周年を迎え、朽網駅特急ルートの停車本数増加や今年秋頃の台湾台北線の運航再開など､空港の発展に向けて勢いが増してきている状況でございます。この流れをさらに加速させるため、機能強化、利用促進、路線誘致、アクセス強化などの取組を推進し、人や物の流れを呼び込み、空港のバリューアップと地域の発展につながる好循環を生み出してまいりたいと考えてございます。

稼げる町の実現に向けて、北九州港と北九州空港が最大限機能を発揮できるよう、港湾空港局職員一同しっかりと取り組んでまいりますので、委員の皆様におかれましては、引き続きの御指導とお力添え賜りますようお願い申し上げます。

議案内容につきましては、総務部長から説明させていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

○主査（小金丸かずよし君）総務部長。

○総務部長　では、着席のまま説明させていただきます。

港湾空港局関連の議案につきまして、本委員会で御審議をお願いするのは、議案第１号、令和８年度北九州市一般会計予算のうち所管分、議案第８号、港湾整備特別会計予算、議案第17号、空港関連用地整備特別会計予算、議案第18号、臨海部産業用地貸付特別会計予算、議案第20号、市民太陽光発電所特別会計予算の以上５件でございます。

予算案について主な内容を款項目ごとに説明させていただきます。

なお、金額は万円単位とさせていただきます。

タブレットの令和８年度一般会計予算に関する説明書を御覧ください。

32ページをお願いいたします。

まず、歳入でございます。

17款１項９目港湾使用料13億5,654万円は、岸壁など港湾施設の使用料収入などでございます。

35ページをお願いいたします。

17款２項７目港湾手数料５億1,107万円は、水域占用料などでございます。

次に、42ページをお願いいたします。

18款２項１目総務費国庫補助金のうち所管分は１億9,163万円で、地域未来交付金のうち、北九州空港の利用促進及び機能強化に伴う国庫補助金などでございます。

59ページをお願いいたします。

18款２項９目港湾費国庫補助金７億8,611万円は、港湾施設の整備に伴う国庫補助金などでございます。

87ページをお願いいたします。

20款１項１目財産貸付収入のうち所管分は４億985万円で、新門司地区埋立地の土地貸付収入などでございます。

91ページをお願いいたします。

20款２項１目不動産売払収入のうち所管分は39億9,330万円で、響灘東地区埋立地などの土地売払収入でございます。

98ページをお願いいたします。

22款２項21目ボートレースによる未来のまちづくり投資基金繰入金のうち所管分は２億2,570万円で、門司港地域複合公共施設整備に伴う基金繰入金などでございます。

104ページをお願いいたします。

24款３項７目港湾費貸付金元利収入４億6,630万円は、臨海部産業用地貸付特別会計への貸付金に対する償還金収入でございます。

115ページをお願いいたします。

25款１項１目総務債のうち所管分８億860万円は、北九州空港整備事業への負担金の財源として市債を借り入れるものでございます。

119ページをお願いいたします。

25款１項８目港湾債52億4,330万円は、港湾整備事業などの財源として市債を借り入れるものでございます。

131ページをお願いいたします。

歳出でございます。

２款３項１目企画振興総務費のうち所管分は、空港推進経費の22億1,644万円で、北九州空港の利用促進及び機能強化などに要する経費でございます。

大きく飛びまして194ページをお願いいたします。

７款４項１目水産業振興費のうち所管分は、筑前海区漁業振興基金積立事業経費の4,950万円で、筑前海区の漁業振興を目的とした寄附金を北九州市筑前海区漁業振興基金に積み立てる経費でございます。

219ページをお願いいたします。

10款港湾費、１項１目職員費13億3,556万円は、職員の給与などでございます。

220ページをお願いいたします。

２項１目港湾総務費10億3,250万円は、港湾の振興、計画など港湾管理事務に要する経費でございます。

２項２目施設管理費７億319万円は、港湾施設の管理に要する経費でございます。

222ページをお願いいたします。

３項１目施設営繕費５億1,536万円は、港湾施設の維持補修に要する経費でございます。

３項２目港湾建設費54億9,690万円は、港湾施設の整備や国直轄事業負担金などに要する経費でございます。

224ページをお願いいたします。

４項２目埋立整備費４億6,179万円は、新門司地区や響灘東地区の埋立整備に要する経費でございます。

少し飛びまして281ページをお願いいたします。

債務負担行為でございます。

今回新たに提出するのは、表の上から３番目より旧門司税関補修事業、響灘東地区処分場整備事業、公共施設ＬＥＤ化事業の３件でございます。

一般会計につきましては以上でございます。

次に、特別会計予算に関する説明書を御覧ください。

まず、港湾整備特別会計について説明いたします。

57ページ及び58ページをお願いいたします。

歳入歳出予算額はそれぞれ63億80万円でございます。

59ページをお願いいたします。

歳入であります。

１款１項１目機能施設事業使用料30億8,064万円は、荷役機械や荷さばき地などの使用料収入でございます。

２款１項１目機能施設事業財産貸付収入１億6,955万円は、倉庫用地などの貸付収入でございます。

62ページをお願いいたします。

６款１項１目機能施設事業債20億9,200万円は、コンテナクレーンの更新などの財源として市債を借り入れるものでございます。

63ページをお願いいたします。

歳出でございます。

１款１項１目総務費14億79万円は、機能施設の管理運営や北九州港の利用促進などに要する経費でございます。

１項２目維持費５億5,229万円は、機能施設の維持補修などに要する経費でございます。

１項３目太刀浦埠頭費13億1,813万円は、コンテナクレーンの更新など、太刀浦ふ頭の整備に要する経費でございます。

64ページをお願いいたします。

１項４目新門司埠頭費６億6,330万円は、新門司地区ＲＯＲＯターミナルの整備に要する経費でございます。

65ページをお願いいたします。

１款２項１目機能施設費繰出金23億5,807万円は、市債償還に係る公債償還特別会計への繰出金などでございます。

67ページをお願いいたします。

債務負担行為であります。

今回新たに提出するのは太刀浦コンテナターミナルコンテナクレーンレール更新事業、太刀浦第２コンテナターミナルチェッキングブリッジ更新事業、公共施設ＬＥＤ化事業の３件でございます。

港湾整備特別会計につきましては以上でございます。

そして、大きく飛びまして140ページ及び141ページをお願いいたします。

空港関連用地整備特別会計でございます。

歳入歳出予算額はそれぞれ490万円で、空港関連用地の分譲地の測量や防草対策などに要する経費でございます。

144ページ及び145ページをお願いいたします。

臨海部産業用地貸付特別会計でございます。

歳入歳出予算額はそれぞれ４億6,630万円で、臨海部の産業用地を企業に貸し付けるものでございます。

少し飛びまして160ページ、161ページをお願いいたします。

市民太陽光発電所特別会計でございます。

歳入歳出予算額はそれぞれ１億540万円で、太陽光発電で得た売電収入を基に発電所の維持管理などを行うほか、市民還元事業の財源として一般会計への繰り出しを行います。

以上で港湾空港局関連の予算関係議案の説明を終わります。よろしく御審議いただき、御承認賜りますようお願いいたします。

○主査（小金丸かずよし君）ありがとうございます。

これより質疑に入ります。質疑は、会派ごとに持ち時間の範囲内で議題に関する事項とし、当局の答弁の際は、先ほども申しましたけども、マイクが入った状態で補職名をはっきりと述べていただき、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁をお願いします。

それでは、質疑はありませんか。日本共産党、永井委員。

○委員（永井佑君）おはようございます。よろしくお願いします。

私から、港湾労働者の労働環境の改善について伺います。

港湾労働者不足対策等アクションプラン2025では、私たちの生活や産業を支えている物資の輸出や輸入の99.6％は港湾を経由しており、国民生活の安定及び経済の発展のためには、安定

的な港湾物流を確保することがますます重要となっているとあり、そのためには港湾労働者が安全・安心に働ける労働環境を整備することが必要不可欠です。

市長は、太刀浦コンテターミナルは、稼げる町の実現のために不可欠な成長エンジンである北九州港を代表する物流拠点であり、その現場作業を担う港湾労働者の皆様の安全確保は必須であると認識をしていると、こういう港湾政策に関する答弁をされてきました。

そこで、改めて港湾空港局の見解を伺います。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　港湾における労働者不足のお話だと思います。

国土交通省では、委員から御紹介いただきましたけれども、港湾労働者不足対策等アクションプランを策定しております。今は2025になっておりますけれども、こちらで、例えば港湾運送の魅力の発信とか、安全性の向上、労働環境の改善などの取組を官民一体となって進めるようなことが示されております。

一方、こういう取組に対して、市でも基本的な労働環境の整備は、いわゆる事業主の責任部分が大きいかと思いますけれども、そういった取組が行われているとは承知しておりますが、関係の皆様の考えなどをいろいろをお伺いしながら、市としても協力できることがあれば協力してまいりたいと考えておりまして、例えば公共施設の更新のときとかに、現場の皆さんの御意見を入れた整備を行ったりとか、企業の皆様が港湾施設の中にこういう施設を設けたいといった場合に、荷役作業に影響がない場所を一緒に御相談をお受けして、お貸しすることで協力もしてございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）永井委員。

○委員（永井佑君）事業主の責任ということもありましたが、市にできることはやっていくということだったと思います。

さらに、アクションプランでは、港湾労働者の不足状況について、不足とやや不足を合わせて約７割に達するなど、港湾運送の担い手不足が常態化している状況が確認されました。また、近年、一部の港湾においては、港湾労働者の不足によりサービス提供に影響が生じているなど、さらなる取組の強化が求められているとしています。

本市においても、太刀浦コンテナターミナルでは、労働者不足でこの２月から日曜日は港湾荷役作業を休業しています。我が党は、これまでもトイレや休憩所など労働環境の改善を求め、指摘をしてきました。港湾施設の整備は、企業の物流効率だけを求めるのではなく、そこで働く労働者の安全と労働環境の改善こそ優先されるべきです。本市は港湾管理者としてどのような責任を果たすのか、答弁を求めます。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　港湾における担い手不足のお話で御質問いただきました、労働環境の整備などのお話ですね。

こちらにつきましては、委員御指摘のとおり、太刀浦コンテナターミナルでは日曜日をお休みにすることで、例えば平日の荷役作業に労働力を集中させたりと、業界側の工夫が行われていることは承知してございます。

施設整備に関しての市の責任の話だと思いますけれども、まず、労働環境の改善に関しましては重要な課題と認識してはおりますが、先ほども申し上げましたけれども、労働関係法令で労働者に対する環境の整備につきましては､事業主の責任が大きいところとなってございます。とは申し上げても、事業主様が取り組まれていることもいろいろあるとは思いますけれども、行政としても、港湾管理者として、施設整備なり施設をお貸しするといったことで協力できることはしたいと考えております。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）永井委員。

○委員（永井佑君）環境については平日に集中という御答弁もありました。法令では事業主の責任は大きいですが、これまでも港湾空港局は日常的にいろいろな港湾に関わる立場の方々、それから、港湾運送事業者、港湾の労働組合の方々と意見交換しながら、よりよい方向に向けて皆さんと一緒に知恵を出していくという答弁をされてきました。

そこで、伺いますが、現在、どのように港湾労働者の生の声を聞いていますか、お願いします。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　港湾労働者の生の声をどのように聞いているかという御質問でございます。

いわゆる港湾における労働組合の方々とは定期的に意見交換をさせていただいております。大きな会合としては年１回程度でございますけれども、日常的にいろいろ御質問をいただいたりですとか、港湾主催というよりハローワークさん主催の現場のパトロールにも我々も参加させていただいたりとか、これは年２回ぐらいございます。

そういうことで、いろいろ関係の皆様の御意見をできるだけお伺いして、なかなか予算の範囲内でできることとできないことがございますけれども、できるだけよりよい港づくりには取り組んでまいりたいと考えております。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）永井委員。

○委員（永井佑君）私も港湾労働者の皆さんに聞き取り、ヒアリングをさせていただきました。これまでも利用しやすい港づくり懇話会というものがあったと思いますが、これについて今の状況を教えていただきたいと思います。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　利用しやすい港づくり懇話会につきましては、大体年１回会合を開いております。開催に当たりまして、関係の方々に事前にお話を伺ったりしております。関係の方々といいますのは、関係行政機関もあるんですけれども、例えば太刀浦とか、太刀浦に限らず、港湾運送事業の方々の団体で港運協会がございます、こういった方々、フェリー会社であるとか、

港湾の労働組合の方々も参加していただいたりとかもしておりますので、そういうことで皆様方からの問題提起があって、それを行政の役割でやること、民間の役割でやることを整理しながら開催しているところでございます。

ただ、その会合は全員で集まってやるような会議になっておりますので、なかなかその時々のお話しというのは、やりづらいこともあるだろうと思いますので、それぞれの立場の方から個別にいろんな御相談を受けたりもしていますので、丁寧に対応するように心がけているところでございます。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）永井委員。

○委員（永井佑君）利用しやすい港づくり懇話会は、直近ではいつ開催されたんでしょうか。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　令和７年度に関しましては３月中に開催する方向で今調整を進めております。年度の後半に開催するように大体年１回。開催の仕方といたしましては、港湾運送事業の方々との集まりの部会とか、フェリー関係の方々との部会とか等を通じて、あと全体の会議を開催したり、コロナ禍といったこともあって、毎回会議で開催できていないこともございますけれども、そういう形で開催しております。

○主査（小金丸かずよし君）永井委員。

○委員（永井佑君）昨年度はいつですか。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　手元に具体的な日付まで入っている資料がございませんので、申し訳ございません。

○主査（小金丸かずよし君）永井委員。

○委員（永井佑君）分かりました。令和７年度は３月中ということだったんですが、日程は決まっていないんでしょうか。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　まだ決定しておりません。今調整中でございます。

○主査（小金丸かずよし君）永井委員。

○委員（永井佑君）今が３月13日なので、もう２週間程度しかないわけですよね。これはこれでやっていただきたいと思いますが、先ほども申し上げましたとおり、港湾労働者の皆さんとお話をさせていただいた際にも、コロナ禍以降、一堂に会して話し合う機会も少なくなっているとありました。

それから、先ほどは労働組合とは年１回、ハローワーク主催のパトロール年２回、あとは随時いろいろな声を聞く機会をやっているということだったんですが、私が聞いた範囲では、年数回書面のやり取りが増えていると。あとは、役所から何かあれば言ってきてという態度が示されているということだったんですね。それから、ある港湾労働者は、町が発展するためのエ

ンジンであるかもしれないと、でも港湾従事する方々は、港湾労働者のエンジンを使いっ放しでいいのかという指摘もありました。エンジンは大事にしないと壊れるよと、冷却も必要、今のように休憩室もないではいけないと、本会議の答弁でも３月末から５月末にということもありましたが。それから、北九州市役所と血の通った対話ができていないと、直接作業している人たちの生の声をもっと聞いてほしいという声もありました。

そこで、今現状での取組を答弁いただきましたが、実際作業をしている港湾労働者や港湾労働の経験もある管理者と本市が直接対話する機会を定期的につくるべきと考えます。先ほどの港営課長の答弁で、たくさんの方が会する会議の状況なので、言いづらいこと、発言しづらいこともあるという趣旨の答弁がありましたが、私は先ほど提案したように、実際に働いている方々、それから、働いた経験もある、マネジメントできるクラスの方々と一緒に定期的に話し合う機会を設けていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　港湾労働組合の方々とは定期的に機会を設けております。いわゆる太刀浦コンテナターミナルを例に取りますと、必要に応じて現場の方々と会合を、こちらから呼びかけたり、向こうから呼んでいただいたりとか、そういったことはやっております。なので、新しい別の会議体をつくるということは今の段階では考えてございません。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）永井委員。

○委員（永井佑君）単発ではあるかもしれませんけど、定期的に仕組み化していただきたいということです。

次に、港湾労働者不足対策等アクションプラン2025では、取組の必要性として、女性人材の活用の必要性を訴える事業者が多く見られた一方で、女性労働者の割合は６％にとどまっていることから、引き続き女性や高齢者等にも働きやすい労働環境の整備が必要とあります。

このように、女性や高齢者が働きやすい環境づくりについても位置づけがされていますが、本市は現場からどういう要望が上がっているのかを聞いていますか。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　女性が働きやすい環境づくりのお話でございますけれども、例えば太刀浦コンテナターミナルですと、女性がたくさん働いてらっしゃるのは管理棟でございます。その女性従業員の方が多い事業者さんに御協力をいただきまして、アンケートを取って、トイレの改修をしていただきたいというお声がありましたので、そういったことを取り組んでおります。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）永井委員。

○委員（永井佑君）高齢者についてはどうでしょうか。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　高齢者に関する御要望については承っておりません。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）永井委員。

○委員（永井佑君）聞いていないということでした。先ほど申し上げましたように、これから、実際働いている方々だったり、管理能力のある役職の方々も交えた意見交換会の中で、今アクションプランで女性の働き場所、高齢者についても整備が必要という趣旨の方針が出されているわけなので、これについて現場の声をぜひ聞いていただきたいと思います、女性や高齢者に関しても、それはどうですか。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　現場の御意見は貴重なものだと考えておりますので、引き続き今までどおりお伺いして、いろんな声を参考にしながら事業に取り組んでまいりたいと思います。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）永井委員。

○委員（永井佑君）今までどおりとありましたが、今まで以上に聞いていただきたいというやり取りをさせていただいたと思います、そこは指摘をさせていただきます。

このアクションプランでは、一般の方が抱いている港湾のきつい、汚い、危険、休めない、低賃金といったイメージを払拭するような取組、魅力ある港湾として、賃金などの労働条件だけではなく、物理的に安全を確保し、女性や高齢者でも働きやすい労働環境の改善が必要、港湾労働者の賃金値上げ、働きやすい設備への改善、女性の労働者を増やすということが港の生の声、労働者不足対策として必要な取組として紹介されています。ぜひ生の声を聞いていただきたいと思います。

物流拠点化のための投資は何十億円も行うのに、そこで働く人のトイレや休憩施設は後回しでは本末転倒です。港湾は、物流のためだけではなく、人が働く職場です。本市は、港湾管理者として労働環境の改善を行うために、港湾労働者と血の通った対話をすべきです。

最後に、港湾空港局長から、ぜひこういうことに関して生の声を聞いていただきたいと、コメントがあればいただきたいと思います。

○主査（小金丸かずよし君）港湾空港局長。

○港湾空港局長　港湾空港局としまして、今までの答弁どおり、我々としては労働者の皆様がいてこそ港湾が運営できると認識しておりますので、現場で働いている皆様としっかり意見をお伺いしながら、その労働環境をどのように改善していくのかを、事業者の方と我々と官民連携しながらしっかり取り組んでいきたいと考えております。

○主査（小金丸かずよし君）永井委員。

○委員（永井佑君）ぜひ今まで以上に声を聞いていただきたいと思います。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）大石委員。

○委員（大石正信君）私から３点伺います。

まず、第三セクター等改革推進債について伺います。

埋立事業は、平成27年、2015年度一般会計から400億円を借金し、その返済のための三セク債

は、今年度179億円の残高が、貸付けで５億円浮いたとして174億円となり、土地の貸付けが好調であると聞いていますが、今後の償還に当たって、土地貸付の状況、土地の評価額の見込み、それを踏まえた償還についてお答えください。

次に、ひびきコンテナターミナルの償還と収支状況について伺います。

今年度は収入が2.9億円で支出が5.4億円、差引き2.5億円の赤字となっています。これに2.2億円の公債償還費を含めて4.7億円となっていますが、昨年度は3.5億円であったものが今年度1.2億円増えた原因は何かについて伺います。

令和９年度には償還完了予定となっていますが、その償還が確実なのか、お答えください。

最後に、新門司港での長射程ミサイルの陸揚げについて伺います。

３月８日、新門司フェリーターミナルにおいて、12式地対艦誘導弾能力向上型が陸揚げされ、熊本県の健軍駐屯地へ輸送されたと報じられました。新門司港は北九州市が管理する港湾施設ですが、この輸送について、いつ、どの岸壁を使用し、どのような手続で港湾施設が使用されたのか、市は把握しているのか、伺います。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）総務課長。

○総務課長　まず、三セク債に関する御質問にお答えいたします。

埋立地造成特別会計は、委員がおっしゃるとおり平成27年度末に清算をしました。この清算に当たりましては、埋立地造成特別会計が保有する市債を償還する必要がありましたので、一般会計から約404億円を発行して償還財源としました。この三セク債につきましては、毎年度元金約20億円を償還する計画で、令和17年度で償還が完了する見込みとなってございます。現在、確実に毎年度償還をしてございます。

一般会計の負担につきましては、三セク債発行当初は186億円と見込んでおりましたが、今年度の決算特別委員会でも説明させていただいたとおり、令和６年度決算時点におきましては、179億円と７億円減らせる見込みとこれまでお伝えしてきたところでございます。今回、令和８年度の当初予算時点におきましては、さらに４億円を減らして、一般会計の負担を、四捨五入しておりますが、175億円と見込んでおります。

これの理由につきましては、まず１つに、令和７年度で貸付契約が終了したもののうち３件が継続して利用したいという意向を事業者からいただきましたので、新たに貸付契約を締結しました。そのために収入見込額が増加したことがございます。それと、この新たな契約を締結するに当たり、土地の評価額を算出し直したところ、評価額が上昇して、資産価値が増加をしていたこと。また一方、これに合わせまして、今後の整備費の推計を見直して修正をしたことを合わせた増減として、決算時にお伝えした179億円から４億円を減らせる見込みとなったということでございます。

貸付けにつきましては、企業様のニーズにもよりますけども、企業さんとしては継続して固定費として経営の中に組み入れるという観点から、継続して貸付けを希望する企業さんが多い

状況にはございます。また、土地につきましても、先ほど申し上げましたように、評価額を再度、今年度算出しておりますけども、上昇トレンド、上昇傾向にあることは間違いないと思っております。償還につきましても、そういったことから貸付けは継続しておりますし、なるべく売却についても積極的に取り組みまして、計画どおり令和17年度で償還するものの財源として取り組んでまいりたいと思います。

また一方で、いろんな計画の変更等も考えてございますので、そういったことも加味しながら、一般会計の負担をなるべく減らすようにこれからも取り組んでまいりたいと考えてございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）業務担当課長。

○業務担当課長　ひびきコンテナターミナルに関する令和８年度収支について、1.2億円増額しているところの内訳についての説明をさせていただきます。

ひびきコンテナターミナルの開港から20年が経過しておりまして、老朽化が顕在しているというところで、これにつきましては、人件費であるとか、主には物件費、ガントリークレーン、トランスファークレーン、あるいはトラクターシャーシ等の荷役機械であるとか、あるいはヤードの照明灯、こういったものについての補修が必要になっております。これに関して、これまで20年間できていなかった部分を大規模に補修するというところで、予算の増額を計上させていただいております。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　３月８日に新門司地区で自衛隊の関係車両が陸揚げされた件について、いつ、どの岸壁を使用したのか、把握しているのかという御質問をいただきました。

当方といたしましては、報道及び政府の記者会見の発表の範囲で承知してございます。例えば、報道では、新門司で３月８日の夜９時頃陸揚げされたとございました。また、政府の記者会見を見ておりますと、９日に、官房長官は、装備品搬入の詳細については、これまでも輸送の安全を確保する観点からお答えを差し控えるというコメントが出されております。また、３月10日には、防衛大臣から、国防に関わる事項として公表できない性質のものとコメントが出されておりますので、我々としてもそういうことでそれ以上の把握はしておりません。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）大石委員。

○委員（大石正信君）三セク債について、これまで埋立てをすれば土地が売れるという安全神話に基づいてやった結果、こういう借金が出てきたと、そういう反省はありますでしょうか。

○主査（小金丸かずよし君）総務課長。

○総務課長　三セク債発行に至ったというところでは、やはりこれまでの見通しの甘さというのは十分に反省をすべきところではないかと考えております。そういった考えで現在も事業を進めさせていただいております。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）大石委員。

○委員（大石正信君）埋立てを行って、土地を整備してきた。その結果、ばく大な借金が生まれてきたと、そういう反省の上で、今度は非常に需要が高まってきている。特にＲＯＲＯ船の需要の高まりの下で、新門司では新たに国が岸壁を整備し、市が背後地に66億円かけて建設をしますが、今後の港湾整備の見通し、市の財政負担の考えについてお聞かせください。

○主査（小金丸かずよし君）総務課長。

○総務課長　新門司につきましては、令和８年度予算で６億6,000万円の予算を計上させていただいております。ＲＯＲＯ岸壁、それから、背後地の整備につきましては、国と一緒に連携しながら進めておりますけども、2024年問題とか、輸送に関する日本全国の問題の解決策としてモーダルシフトが非常に有効だということで、フェリー、ＲＯＲＯの貨物、それから、航路の拡充がニーズとして上がってきております。北九州港にも新たなＲＯＲＯ航路を開設したいというニーズがございますけども、現状ではすぐにお使いいただけるところがございませんでしたので、そういったタイミングを逃さずに需要を取り込むというところで、今年度、新たに予算を計上したところでございます。

御指摘のとおり、三セク債を発行した経緯として見通しが甘かったということはございますけども、その一方で時期を逃すことも避けなければならないといったことがございますので、費用につきましてはきちんと将来推計を精査した上で、毎年度過大な予算にならないようにきちんと精査をして予算に計上したいと考えてございます。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）大石委員。

○委員（大石正信君）これまでの反省の上に埋立てをしてきた、それがばく大な借金が生まれてきた、過大な需要予測に基づくものがあった。一方で、2024問題などもあって、ＲＯＲＯ船、航路の需要が高まってきているという問題もありますので、慎重に対応していただきたいと要望します。

次に、ひびきコンテナターミナルについて、できて20数年がたつということで、老朽化してきているというところで、この1.2億円が増えたということですけども、償還については令和９年には償還をするということになっていますが、そもそもこのコンテナターミナルの貨物取扱量については100万ＴＥＵ、これが見直しをされて、現在、10万ＴＥＵに変更されていますよね。現在、コンテナ貨物の推移、ＲＯＲＯ船などを含めた今後のコンテナ貨物取扱いについての見通しについて伺います。

○主査（小金丸かずよし君）物流振興課長。

○物流振興課長　ひびきコンテナターミナルの取扱いの見込みについてお尋ねいただきました。

ひびきコンテナターミナルは、言われましたとおり、平成19年に供用化して、物流基盤としての港へとビジネスモデルを再構築して現在に至っているところでございますが、委員御指摘

のとおり、ずっと低迷状態でございました。直近で申しますと、令和４年の日本海航路の就航が１つの転機でございまして、まず、令和６年がこれまで最高の６万9,000ＴＥＵと案内させていただいておりました。確定値はまた毎年案内させていただいているところで、ただ速報値ではございますが、去年の６万9,000に対して約１万ほど増えている状況でございます。これは日本海航路がすごく好調でございまして、言われるように目標の10万にはまだ達成しておりませんが、こういった取組を順調にというか、着実に進めているところでございます。

多目的利用に関しましても、ＲＯＲＯの引き合いとかも入ってきておりますので、そういったものを見極めながら、コンテナがメインではございますが、収入がさらに上がる施策を打って、しっかりとやっていきたいと考えております。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）大石委員。

○委員（大石正信君）着実にコンテナ貨物の取扱量、そもそも100万ＴＥＵが10万ＴＥＵになったということで、頑張っていただきたいと要望します。

次に、長射程ミサイルの陸揚げについて、港営課長は官房長官が答弁は差し控えるということを言われたんで、私が言いたいのは、そもそもこの岸壁の使用については市の港湾空港局の管理になっていますよね。それについて許可したのか、していないのか、いかがですか。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　まず、一般的に船舶が公共岸壁を利用する場合、許可申請書の提出を受けまして、対象船舶の全長とか、トン数とかを当該岸壁の能力に照らして適切かどうかを確認するなどしながら、条例の不許可事由に当たらないことを確認した上で許可を行っている状況でございます。

今回のケースに限りましては、自衛隊から申請が出てきているわけではございませんので、船の接岸に関して、いわゆる例えば自衛隊が民間の船会社に依頼をして契約されている場合には、その自衛隊の何かを運びますといったことは許可の中には含まれませんので、我々としてはそこまで分からないということになります。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）大石委員。

○委員（大石正信君）自衛隊のものではないとしても、こういうものが確認されているのか、確認されていないのか、どこの岸壁を使って何時何分に来たのか、荷物の中身まではつかんでいないとしても、つかんだか、つかんでいないのか、そのことについてはいかがですか。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　今回の自衛隊が輸送されているものについて確認されているのかという話だと思いますけれども、確認はしておりません。今回の委員がおっしゃいます自衛隊が輸送している車両、そちらについて確認したかという御質問に対しては確認をしていないという回答になります。

○主査（小金丸かずよし君）大石委員。

○委員（大石正信君）確認していないとよく分からないんですけども、2024年に特定利用空港・港湾が出されましたよね。北九州空港については、自衛隊の訓練も含めて行っていく、米軍でもあり得るということで、年数回程度ということで、年４回程度行われています。今回、港湾については特定利用空港・港湾に指定されていないと思います。指定されていない下で、市が港湾施設について許可をするようになっているわけですよね。許可なく入ってきているということじゃないわけでしょ。公共の施設については市が管理をしていくということでは、民間のふ頭を使って入ってきているということですか。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　民間のふ頭かどうかは把握しておりません。

先ほどの説明を少し補足させていただきますと、公共岸壁で船会社や船舶代理店から申請をいただく形になります。自衛隊から直接申請を受けておりませんので、どの船で運ばれているか、把握できておりません。

○主査（小金丸かずよし君）大石委員。

○委員（大石正信君）自衛隊じゃないから分からないと、民間の施設だとしても、これについて把握することはできるんですか、できないんですか。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　当然許可を出しますので、申請があった方に関してはもちろん把握はしています。ただ、その船を使って契約によって依頼をしている荷主さんに関しては、必ずしも我々としては把握する立場にはございません。

○主査（小金丸かずよし君）大石委員。

○委員（大石正信君）民間のふ頭だったら把握はできないということですか。

○主査（小金丸かずよし君）ここで申し伝えます。あくまでも予算の審議の範囲内での質問と答弁をお願いいたします。港営課長。

○港営課長　先ほど来、市の業務の関係で説明いたしますと、船会社さんから岸壁の使用申請をいただいて許可をする、その直接の相手方との関係では当然把握しておりますけど、それ以外の方につきましては岸壁の使用に関しては把握していないと、そういうことでございます。

○主査（小金丸かずよし君）大石委員。

○委員（大石正信君）予算の範囲内でと言われたんですけども、こういう問題が、岸壁の使用について、こんなことは今までなかったことであって、実態として長射程ミサイルについては、ミサイル本体ではなくて、発射台と言われていますけども、港湾施設全体に関わってくる問題なんで質問しているわけですよね。だから、市が全然知らないところで行われているのか、それとも官房長官がこういう答弁をしたことによって言えないということかもしれないんですけども、熊本の県知事も市長も全く健軍に情報が入っていないということについて、怒りを表しているわけですよね。確かに防衛問題は国の専管事項であったとしても、熊本の県知事や市長

もそのことについて情報を出してほしいと。というのは、県民、市民の命と安全に関わっていく問題だということなんですよね。ましてや、北九州市は非核平和都市宣言を掲げている、そういう中で特定利用空港・港湾の指定もされていない中で、こういう問題が入ってきたときに港湾空港局が知らないということが果たして市民に通用するのかということについて、知らなければ国なり防衛省に対して、どういうことでこれが来たんですかということは言えるわけですよ、熊本だって言っているわけですから。だから、これは予算に関わる重要な問題です、関係ないことじゃありません。北九州市は非核平和都市宣言を掲げている、そういう中でこういう問題が入ってくるということは問題であるから私は言っているわけですよ。そういう国に対して聞く、そういうことはあるんですか、聞いたりできないんですか。

○主査（小金丸かずよし君）港営部長。

○港営部長　これまで港営課長が答弁しているとおりなんですけれども、市が管理しております岸壁の使用申請につきましては、船舶の情報、長さとか重さとか、そういったこと、それから入港目的というのは確認するようになっています、それは許可申請の事由になります。では、具体的な貨物の中身というのは、我々としてはそこまでは求めていないと、いわゆるコンテナで来ればコンテナを運ぶ、車両を運ぶのであれば車両を運ぶ、そういう形になっておりますので、先ほどから港営課長が答弁しておりますように、今回の件に関しては内容としては分からないという形になります。我々港湾管理者としましては、施設管理の観点から必要な情報はいただきたいというところはございますので、その点についてはこれまでもいろいろと情報共有を図っているところですが、引き続き情報共有を図っていきたいと考えております。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）大石委員。

○委員（大石正信君）私は第七管区海上保安本部に連絡をしました。市は、第七管区海上保安本部が把握しているからということで、あなたのところは把握しているんですかという問合せをしました。そしたら、第七管区海上保安本部は市が全てを取り仕切っていると、市が全部知っているはずだと言われたんですよね、そのことはいかがですか。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　市は先ほどの岸壁の許可をする権限の範囲で関与しております。保安部の関与になりますけれども、少し説明させていただきますと、例えば北九州港は港則法といういわゆる海上の交通安全ルールを定めた法律に基づいて、海上保安部の関門港長が権限を持っております。その中で、例えば危険物を積載した船舶に関しては、関門港長の手続がございますので、それを全て市で把握しているということはございません。あくまで市は市の、海上保安部は保安部の、それぞれの権限と役割の範囲内で関与しております。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）大石委員。

○委員（大石正信君）第七管区海上保安本部は、危険物だとかについて把握すると言われてい

たんだけど、こういう形でミサイル本体ではなく、発射台なんですけど、言われていたのは、多分、日出生台などについても大分の港を通じて長射程ミサイルの配備がされてくる、富士駐屯地から今回運ばれているんですけども、干満の差があったんじゃないかということで新門司港に陸揚げされているんですけども､いずれにしてもこういう形で起こってくることについて、中身のことは把握できないとしても、どういう船がどういう形で入ってきたのかについては、国なり防衛省に対してしっかりと意見を言っていただきたい。そうじゃないと、事実上の特定利用空港・港湾、これ港湾は指定されていないわけですよね、という中でなし崩し的な形でいくことが問題じゃないかと。非核平和都市宣言を掲げている北九州市でこれが常態化する可能性だってあるわけでしょ。そうなると問題が大きいわけで、そこは国なり防衛省に対してきちんと掌握をしていただいて､そしてきちんと国に対しても意見が言えるという状況をつかんで、市民にもきちんと情報提供ができるようにしていただきたいと要望して終わります。

○主査（小金丸かずよし君）質疑はありますか。北九州会、伊﨑委員。

○委員（伊﨑大義君）北九州会の伊﨑です。

洋上風力について２点と空港について１点質問させていただきます。

まず、洋上風力について、ほかの委員さんも非常に気になっているところと思うんですけども、先日、経済産業省とベスタス社の風力発電製造拠点設立の覚書が出まして、報道の中で立地場所の候補地に北九州市も上がっているというお話がございました｡こちらへの受け止めと、今後、これを踏まえたアクションについてまず教えてください。

２点目が、浮体式洋上風力について、令和８年度予算でも浮体設備の調査費用が計上されております。今後、導入していく上で肝になってくるのが、沖合から陸上にどうやって電力を輸送するかになってくると考えています。現状は海底ケーブルが一番アイデアとしては出ると思うんですけど､これは地震とか津波に弱いですし､水深が深いと設置が困難と伺っております。今その中で、電気運搬船というものがスタートアップを中心に開発されていて、その代表であるパワーエックス社さんは、今北海道の室蘭市と包括連携協定を結んで、沖合の洋上風力から陸上まで船を通して電気を運ぶということに挑戦しています。室蘭市もベスタス社の進出先として今上がっているところですけども、本市として、今後、浮体式洋上風力導入を目指す上でこの電気運搬船という選択肢をどういうふうに考えているのか、検討状況を教えてください。

３点目、空港について、この秋に台湾便が復活します。期待が高まるところですけど、先日の12月議会でも質問させていただきましたが、今の韓国便を見ていても海外から北九州市にいらっしゃる方がメインで、こちらから海外に行かれる方が少ないということで、それが国際線がなかなか定着しない理由だと伺っております。北九州市から台湾へのアウトバウンドをどうやって戦略として盛り上げていくのか、令和８年度予算で具体的に検討されている部分を教えてください。以上３点お願いします。

○主査（小金丸かずよし君）総合拠点利用促進担当課長。

○総合拠点利用促進担当課長　１点目、経済産業省とベスタス社の覚書について答弁させていただきます。

経済産業省とベスタス社２者で結ばれた覚書につきましては、両者の中で締結されたものでございまして、一部マスコミの報道でも委員がおっしゃられたとおり、候補地が上がっておりますが、この２者の発表の中では具体的な地名までは言及はされてございません。

ただ一方で、北九州市としてはこれまで長らくベスタス社に対しましても響灘地区への誘致活動を続けてきたところでございますので、国の発表は国内での拠点の設置に向けた覚書とはなってございますが、本市として、大変喜ばしいことだと思っております。

今後、我々も経済産業省へ働きかけてまいるとともに、地元企業とともに連携して、この誘致実現に向けてこれまで以上に力強く取り組んでまいりたいと思っております。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）洋上風力拠点化推進課長。

○洋上風力拠点化推進課長　浮体式の展開について答弁申し上げます。

北九州市が目指している浮体式の総合拠点ですけども、その肝と考えておりますのが浮体式基礎、これの部材を我が国のみならず東アジアに供給する製造基地を設置したいと考えております。もちろん委員がおっしゃるように、今後、浮体式は日本の主流になってまいりますので、その浮体式、ウインドファーム自体が持つ課題である送電は重要なことと存じ上げておりますけども、あくまで私どもが今一番重要視しているのがフローター、浮体式基礎の製造でございますので、パワーエックスの件は承知しておりますけども、これらの点については状況を注視してまいりたいと考えております。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長　台北線のアウトバウンドについてお答えいたします。

台北線はスターフライヤーさんが今年の秋に運航ということで、秋というのが何月かにはよりますけども、６年ちょっと、６年半ぐらい、９月ぐらいであればそういう話になろうかなと思ってございます。先ほど委員がおっしゃいましたように、韓国路線も非常にアウトバウンドが課題と考えてございます。アウトバウンドが少ないから定着していない、そこだけではもちろんないんですが、おっしゃるとおり課題だと思っています。台北線は、現状、スターフライヤーさんから正確な時刻は出ていませんが、深夜早朝帯を予定していると報道発表等では言われてございます。そうすると、例えば台北線、チャーター便を今年もやりましたが、チャーター便だと午前０時頃出て、台北に午前１時50分ぐらいに着くのが今の現状にはなってございます。これはあくまでもインバウンドだけのチャーターでありますが、こういう機材繰りもしているところです。そう考えますと、向こうに着いてから、深夜とかだとそこをどうするかというのが一番重要かなと思っています。

あともう１つは、福岡空港との違いですね、深夜ということになると、福岡空港は日中に台

北線が飛んでいますし、福岡空港だけじゃなくて、近隣空港ではあるんですけれども、そうすると仮に深夜にここを出るとなると、広域からの集客が見込めるのではないかなと、例えば山口方面、もしかしたらもっと行くと広島方面だったり、九州であったり、そこは北九州空港ならではの特色を生かして、広域から集客したいなと考えてございます。

具体的には、今既にもうやっている、例えばパスポート取得の応援キャンペーン、パスポートを取得して北九州空港を利用したら支援しますという話だったり、北九州空港は駐車場が安いのが魅力ですが、さらに２日間無料にするキャンペーンをやっていますので、そういったキャンペーンもやっていく。あとＯＴＡですね、オンライン・トラベル・エージェントなどで幅広い広報もやっていきたいと考えてございます。

いずれにしましても、台北線はどういうダイヤになるか、もしかしたら早朝北九州発になるかもしれませんし、いずれにしても深夜早朝帯とは言われていますので、そうなると特色を生かしたアウトバウンド対策をやっていきたいと考えてございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）伊﨑委員。

○委員（伊﨑大義君）それでは、１つずつ深掘りさせていただきます。

まず、ベスタス社の進出について、これは秋田新聞さんの報道で、早速この報道があった後に秋田にベスタス社の担当者さんが行かれたという話も聞いていて、北九州市にはそういったベスタス社からのアプローチという動きは今の時点ではまだないんでしょうか。

○主査（小金丸かずよし君）総合拠点利用促進担当課長。

○総合拠点利用促進担当課長　我々北九州市としましては、従来から長きにわたって交渉をさせていただいておりまして、引き続き現在もベスタス社といろいろとコンタクトはさせていただいているところでございます。

○主査（小金丸かずよし君）伊﨑委員。

○委員（伊﨑大義君）分かりました。ここで焦ってする必要もないということで、安心しました。

ここでお話を出したいのが韓国のことです。2023年１月に、ベスタス社がアジア太平洋生産拠点を韓国に置くという報道を私も見ました。ほかにも全羅南道と木浦市に洋上風力サプライチェーン構築に関する覚書を結ぶという動きも韓国ではあって、これは先を越されたなと思っていたんですけど、その韓国が肝腎の洋上風力導入が2025年時点で累計で0.35ギガワット、計画の１％しか進んでいない状況です。その中で、今回、日本に進出するという話が出てきていて、韓国がこれだけいろいろとベスタス社との連携を発表しているにもかかわらず進んでいない現状と、それを踏まえて、じゃあ日本として、北九州市としてどうするかという分析があればぜひ伺いたいです。

○主査（小金丸かずよし君）総合拠点利用促進担当課長。

○総合拠点利用促進担当課長　韓国の件にお答えさせていただきます。

委員がおっしゃられた韓国とベスタス社も覚書を結ばれて進められていることは我々も承知しております。その中で、委員からも今お言葉がありましたが、韓国の国内でのウインドファームの形成状況がまだ進んでいないのが大きなところじゃないかと思っております。

日本におきましては、３月２日に我々北九州港でもウインドファームを開設しましたし、長崎の案件も動き出したと。経済産業省におきましては、2030年、2040年という目標を掲げていまして、国としても案件形成に向けた力強い動きをされていると。その中で、今回、経済産業省におきましては、案件形成を進めるに当たって、国内サプライチェーンの強じん化をかなり力強くやられております。その一環として、海外メーカーの誘致にも力を入れられておりますので、そういったところの評価も含めて、２者の間でそういった覚書につながったのではないかと思っております。我々もそういった動きに合わせて、積極的に誘致活動をこれまで以上に進めていきたいと思っております。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）伊﨑委員。

○委員（伊﨑大義君）私も韓国の件をいろいろと調べてみたら、漁業者の反対がかなり強くて、そこの合意形成がうまくいっていないと聞いております。北九州市はこうやって今回響灘に無事スタートしているように、そこがうまくいっているんだなと思って、これは国際的に見ても大きなアドバンテージだと思うので、引き続きそこのコミュニケーションを丁寧にやっていただきつつ、この拠点誘致をぜひ進めていただきたいなと思っております。

もう１個、洋上風力に関連して、アジアではもう中国の導入量が圧倒的に１位ですけども、２位が台湾になっております。先ほど国際便の話もさせていただいたんですけど、ぜひ洋上風力の観点から、今日本よりもはるかに台湾のほうが導入量も多いので、人材交流とか、ノウハウ交換とか、台湾と進めていただきたいなと思っておりますが、洋上風力という観点で今の台湾とのそういうやり取りはどれぐらいやっているものでしょうか。

○主査（小金丸かずよし君）洋上風力拠点化推進課長。

○洋上風力拠点化推進課長　台湾については、私どもも何度も意見交換に行っておりまして、今年度は本市の洋上風力拠点化推進担当理事が台湾でシンポジウムにも参加しております。情報交換自体は常日頃から行っておりますので、向こうも取り込んで、さらに総合拠点化を進めていきたいと考えております。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）伊﨑委員。

○委員（伊﨑大義君）ありがとうございます。

先ほど北九州市が浮体式に向けて基礎をつくっていくという話があったんですけど、その辺のサプライチェーンも、国内はもちろんですけど、台湾も含めた東アジアとしてのサプライチェーンができれば、国際的な関係強化、安全保障の部分にもつながっていくと思うので、そういった観点からも引き続きコミュニケーションを重ねていただければと思います。

もう１つだけ、浮体式洋上風力に関連して、北九州市では浮体基礎の建設について集積して

いくということだったんですけども、この浮体基礎というものは、洋上風車以外にも応用性のあるものなんでしょうか。例えば、浮体設備の上に、海洋都市みたいな感じで町を建設するとか、何かそういった応用性はあるんでしょうか。

○主査（小金丸かずよし君）総合拠点利用促進担当課長。

○総合拠点利用促進担当課長　風車の浮体式という大きさでありますと、風車を建てるためのものでございます。それでも100メートルとかの幅の大きなものではありますが、風車の浮体基礎自体は風車を建てるためのものではございます。もともと海洋工事におきましては、フローターと呼ばれる大きな台船をイメージしてもらったらいいんですけど、そういった大きな浮かべるものがございますので、そこで工事をするときとかにいろんな部材を置いたりとか、海上工事をやったりとか、そういうフローターの部分はございます。

海上都市となりますと、どういった都市までできるかというのはありますが、当然重量とかもありますので一概には言えませんが、今回の浮体式の基礎につきましては、風車を建てるための基礎というところで、いろんな企業さんで開発の検討が進んでいる状況でございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）伊﨑委員。

○委員（伊﨑大義君）100メートル掛ける100メートルはすごい大きなものなので、いろんな可能性があると思います。東日本大震災が終わった後にメガフロートがすごく注目されて、私も本会議で浮体式原子力とかも発言させていただいたんですけど、本当に浮体設備はいろんな可能性があって、特に常に津波と地震のリスクに見舞われている日本においては、大きな可能性を秘めている産業の１つになり得ると思うので、洋上風力だけに限らず、幅広い展開の可能性を今後も探求して、研究を重ねていただければと思います。

最後にもう１つだけ、台湾について、先ほど広域からの利用、深夜便であることを生かして、山口とか、大分からもということで集客を考えているとおっしゃったんですけど、やっぱりここでアクセスの問題が出てくると考えております。バスの増便については、朽網とか市内においての話ですし、特急も山口方面だとなかなか補えないですけども、自家用車を使えない方、観光客とかに対して、この広域での利用を促すのはどういった事業計画が今あるでしょうか。

○主査（小金丸かずよし君）アクセス・新技術担当課長。

○アクセス・新技術担当課長　広域でのアクセスにつきましては、まさに今進めています朽網駅特急ルートが、最寄りの朽網駅までエアポートバスで運びまして、そこから鉄道につながりまして、小倉方面、博多方面にも行ける、それから大分方面にも行けるということで、広域アクセスの手段になると確信しております。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）伊﨑委員。

○委員（伊﨑大義君）私が伺いたいのは、博多、大分は今それがあると思うんですけど、山口方面の自家用車がない方は難しいかなと思って、ここは何かアプローチがあるんでしょうか。

○主査（小金丸かずよし君）アクセス・新技術担当課長。

○アクセス・新技術担当課長　山口方面につきましては、やはり小倉まで行っていただくと、小倉から乗換えで山口方面までアクセスが非常に便利になっていますので、小倉方面のエアポートバスにつきましても、昨年の４月に増強しております。朽網から鉄道を使うのも有効ですし、また小倉で乗り換えて鉄道を使うといったところも非常に便利になっていると考えてございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）伊﨑委員。

○委員（伊﨑大義君）分かりました。今後、利用者を分析される中で、このエリアから引き合いが意外と強いぞとなれば、そこに柔軟にアクセス強化していくことをぜひ検討いただきたいですし、また、産業経済局のお話の中で、次世代交通としてトヨタのｅ－Ｐａｌｅｔｔｅを学研都市と結ぶために今使っていくという話があったんですけど、本来は自動運転に対応している機材だと思うので、例えば今後、朽網から空港までｅ－Ｐａｌｅｔｔｅを走らせてみるみたいなところも、アクセスの改善とか、新しい空港の魅力としても生きると思うので、部署をまたいで、その実証実験をチェックいただいて、場合によっては連携を進めていただければと思います。私からは以上です。

○主査（小金丸かずよし君）ここで副主査と交代いたします。

（主査と副主査が交代）

○副主査（大久保無我君）小金丸委員。

○委員（小金丸かずよし君）令和８年度の港湾空港局予算についてお聞きします。

一般会計が105億1,000万円、前年比としてはマイナス９億2,200万円、特別会計としては68億7,700万円、前年比としてプラス４億3,200万円となっております。この中で、港湾と洋上風力関連についてそれぞれ項目があるわけですけども、限られた財源の中でどこに重点を置いたか、分かりやすく説明をお願いしたいと思います。

○副主査（大久保無我君）総務課長。

○総務課長　一般会計及び港湾整備特別会計に関する質問にお答えいたします。

委員がおっしゃったとおり、今年度の一般会計におきましては、港湾関連はマイナスとなっております。この大きなものは、今年度の予算では国有地の取得経費を13.8億円計上しておりましたけども、来年度につきましてはその購入予定がございませんので、その部分がマイナスになっているのが一般会計でいうと大きな理由でございます。特別会計につきましてはプラスとなっております。

特に来年度の予算で重要視している点につきましては、港で言いますと今響灘東でやっております廃棄物処分場に関する経費、これは市民生活に直結しておりますので、毎年度約20億円計上しておりますけども、完成までしっかりと確保したいと考えております。

それから、もう１つは、持続可能な港湾を今後も運営するというところで、今年度は新たに

維持補修経費等を増額してございます。１つは水道管の改修で新規事業として２億円を計上しておりますし、港湾施設マネジメントでも重点的に配分をしております。

特別会計につきましても、同じように持続可能なというところで、先ほどからお話がありましたように、今後を見据えて時期を逃さずに需要を取り込んでいくというところで、新門司のＲＯＲＯ関係に6.6億円を計上させていただいておりますし、今後、新たに太刀浦の第１コンテナターミナルのクレーン整備にも着手をするということで、第２コンテナターミナルのクレーンの改修はほぼ終わりが見えておりますけども、それが終わった後は第１コンテナターミナルに予算を振り替えて、こちらも重要な拠点でございますので、取扱量をさらに増強できるように持続可能な港湾に向けて重点的に予算配分、予算計上しているという考えでございます。以上でございます。

○副主査（大久保無我君）小金丸委員。

○委員（小金丸かずよし君）非常に分かりやすく詳細にありがとうございました。

第２質疑としては、港湾関連の大型投資について、今新門司のＲＯＲＯターミナル整備、また、響灘東地区の処分場の整備、港湾施設の健全化ということで、いずれも多額の予算が計上されております。これらの事業、また、さらに空港関連で言えば、今一番注目を浴びているのが滑走路延長の地元負担金８億9,900万円、また、航空物流支援５億8,800万円、いずれも非常に大きな額を予算として計上されているわけですけども、これらについて、恐らく今年度で終わる事業は非常に少なくて、例えばいつまでにどれだけの物流の増加を見込んでいる、また、収入増を見込んでいる等の具体的な数値目標が示されていない状況です。その点につきまして説明のほどをよろしくお願いいたします。

○副主査（大久保無我君）総務課長。

○総務課長　具体的な数値目標でございます。

まず、私どもは新ビジョンにおけるＫＰＩといたしまして、港につきましては、令和11年度に港湾の総取扱量、海上出入貨物取扱量といいますけども、総取扱量を１億900万トンという過去最高の数字を目標にＫＰＩに定めております。一方で、空港につきましては、令和10年度に、旅客につきましては200万人、それから、貨物につきましては５万トンというＫＰＩ、港１つ、空港２つのＫＰＩを新ビジョンに掲げさせていただいております。以上でございます。

○副主査（大久保無我君）小金丸委員。

○委員（小金丸かずよし君）明確な答弁をいただきまして誠にありがとうございます。

最後になりますけども、先ほど伊﨑委員がおっしゃったように、国際便のアウトバウンドの促進で、私たちも積極的に外に行って、北九州市という町をＰＲしていきたいと思います。先日、北九州空港から清州便を利用しまして、韓国の清州に行ってまいりました。その際に感じたのは、北九州市内においては、清州市のことがあまり周知されていない、私も含めてされていない状況で飛びましたので、いろいろと勉強することがあって新鮮な反面、やはり事前に周

知があればもっと北九州市民の旅客を巻き込めるのだと思います。もちろんエアロＫという航空会社は民間ですので、その点民間と行政とのタイアップを双方で行う必要があると思いました。その報告も兼ねて、答弁のお礼とさせていただきます。以上をもちまして終わります。

○副主査（大久保無我君）ここで主査と交代いたします。

（副主査と主査が交代）

○主査（小金丸かずよし君）質疑を続けたいと思います。質疑はございますか。市民とともに北九州、宇都宮委員。

○委員（宇都宮亮君）よろしくお願いします。

広域集客促進事業について２点伺います。

この事業は令和７年度に新規事業として行われたものだと思うんですけれども､今回834万円の予算を計上していて､前年度対比で1,744万円の減額となっているかと思います。この減額の理由と、前年度の決算内訳を踏まえて、今年度の予算の内訳を教えてください。

もう１点､この事業の目標として､令和10年度までの空港利用者数が200万人と設定されていると思うんですけど、この事業での達成利用人数が118万人という結果になっていると思います。今年度は何人を目標数値として事業を進めていくのか、お聞かせください。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長　広域集客の事業につきましては、先ほどお話がありました鉄道、特急停車に係る費用でございまして、ＪＲ九州さんと協議いたしまして、今、特急停車していただいています。北九州市内への部分、例えば福岡であったり、大分方面の分のどうしても最初につきましては補塡といいましょうか、市の支援も出てきますので、減額になった部分は、実績をベースにある程度最初の段階では大きく予算を組んでいたところは、若干絞ってきています。

今旅客数につきましては、令和10年度200万人のＫＰＩとして、大体120万人ぐらいでございますので、こちらは課題としましては路線の復活だったり集客が大事と思っていますので、今年度予算でも路線誘致、ないしは既存路線の集客に努めてまいりたいと考えてございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）宇都宮委員。

○委員（宇都宮亮君）ありがとうございます。

前年度のことなんですけれども、前年度は多分広域集客促進事業という名前だったと思うんですよね。その中身としてＭａａＳ事業を行うということが多分メインにあったと思うんですよね。その前年度の内容も踏まえて内訳を教えていただきたかったんですけども、そこら辺はどんな感じでしょうか。

○主査（小金丸かずよし君）アクセス・新技術担当課長。

○アクセス・新技術担当課長　ＭａａＳ事業につきましては、様々な輸送モードを乗り継ぐといったところで、エアポートバスと鉄道を乗り継ぐ一体の切符、電子切符をつくるというとこ

ろでこういったＭａａＳの事業を活用させていただいております。九州Ｍａａｓの取組の１つの中でやっている事業でございまして、先ほど申しました広域集客促進事業の中の博多、大分方面の切符もそうですけれども、市内の折尾、黒崎、それから、小倉方面の割引切符についてもこのＭａａＳ事業でやっているという状況でございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）宇都宮委員。

○委員（宇都宮亮君）ありがとうございます。

アクセスの利便性向上のための事業でもあるとは思うんですけれども、いわゆる観光型ＭａａＳ、箱根でいう、はこチケとか、いわゆる体験をセットにしたチケット販売とかが行われている地域もあると思うんですけれども、そういったところは特に予算の中にそもそも考えられてはなかったという認識になりますか。今回は計上されたりとかはないですか。

○主査（小金丸かずよし君）アクセス・新技術担当課長。

○アクセス・新技術担当課長　観光地との連携というか、ＭａａＳの中でやるところは来年度の事業では考えてございません。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）宇都宮委員。

○委員（宇都宮亮君）ありがとうございます。

多分これから観光地、ナイトタイムエコノミーの推進であったりとか、今すしの都とか、いろんな戦略を打って集客をしないといけないところの佳境になってくるとは思うんですけれども、それこそちょっと飛ぶとは思うんですが、河内温泉あじさいの湯がもし復活したらそことも連携したらいいなともすごい思ったり、このＭａａＳ事業の発展は結構今後の北九州市の要になってくるのかなと思うので、来年度、その内容が特に考えられていないというのはちょっと残念なところではあるなと思っています。ぜひ考えてもらいたいなと、これは要望になります。

もう１点目の利用人数についてなんですけれども、この120万人ぐらいの数字根拠、この事業を行ったから来たよっていう根拠は何になるんですかね。

○主査（小金丸かずよし君）旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長　令和６年度の空港旅客の利用者数が大体120万人ぐらいなんですが、これが広域集客で全部来たかと言われるとそれは多分違うとは思ってございます。120万人というのは、あくまでも空港利用者数でございますので、インバウンドの方も当然います。インバウンドの方で北九州空港にいらっしゃって、例えば別府方面に行く方もいらっしゃいますし、福岡方面もいるとは思うんですが、全てを含めてのお客様が120万人というところではございます。その中のいろんな施策の１つがこの広域集客であるというところでございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）宇都宮委員。

○委員（宇都宮亮君）ありがとうございます。

その内容になってくる、全体の数字になってくると、このＫＰＩはあまり意味をなしていないのかなと、ちょっと思っちゃうんですよね。広域事業に対してのＫＰＩの設定とその結果というものが出されていると思うので、この広域事業だけでのＫＰＩをつくるべきだと思いますし、その内容だけで達成した人数じゃないとあまり意味がない、意味がないというよりは、じゃあ結局この事業でどうなったのという指標としては不十分かなと思うんですよね。この広域集客促進事業を来年度行うとして、今考えているＫＰＩ、目標数値、達成利用人数118万だったよ、じゃないほかのＫＰＩは設定されてありますか。

○主査（小金丸かずよし君）旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長　広域集客だけのＫＰＩは今策定してございません。あくまでもいろんな施策を打って、最終的に令和10年度に200万人を達成したいというところでございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）宇都宮委員。

○委員（宇都宮亮君）分かりました。

ぜひ一つ一つの事業が大事なものだと思うので、１つ目標というか、ちゃんと成果目標を持ってこの事業を進めてほしいなと思うところです。それぞれの目標がないと、事業って進めがいもないし、それこそ市民に対しての説明事由が不足すると思うので、ぜひこのＫＰＩ目標数値はしっかり決めていただいて、この予算の内容もしっかりと決裁していただいて、事業を進めてもらえたらなと、これも要望とさせていただきます。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）三宅委員。

○委員（三宅まゆみ君）私からも数点お尋ねいたします。

まず、みなと緑地ＰＰＰの件はありがとうございました。これからＰＰＰは着実に広がっていくんだろうと思いますし、上野委員も本会議でも質問してくださったんですけども、さらにこれからの可能性についてもということでありますので、ここはもう要望とさせていただきますけれど、ぜひまた進めていただきたいと思います。

私からは、北九州フライトネットワークの拡充事業ということで、空港の20周年、本会議でも申し上げましたけれど、北九州空港に行ったことのない市民の方はすごく多いと思うんですね。特に八幡西区とか若松区とかは非常に微妙な位置で、福岡空港のほうがある種便利がよかったりとかというところもあると思います。とにかく私は市民に北九州空港に来ていただきたい、今回ちょうど20周年ということで式典とかはあるんですが、何かこの20周年をもっと市民にＰＲすべきではないかなと思っています。一回ぱっと式典をやって20周年です、はい、マスコミも報道しましたで終わるんじゃなくて、北九州空港20周年を機に空港に来てみませんかっていうような何か定期的にイベントなのか、ずっと空港で20周年で人をとにかく呼ぶっていうことが大事ではないかなって。先ほどもアウトバウンドのお話もありました。こっちから乗っていかないと、なかなか飛行機の新規路線の就航にはつながらないということもありますので、

そのためにも多くの人にまずは来てもらいたいというのがあります。

軌道系とか、それから、公共交通の充実というのはもちろん大事なんですが、そこは採算が合わないとなかなか先に進まないということでありますので、今福岡空港に車で行こうと思ったらすごい混んだりとか、大変なんですね。駐車場は確かに増えていますけれど、そこに移動する間に大渋滞だったりとかして大変ですし、福岡空港を利用しようと思うと、結構早めに、１時間以上前に確実に行っていないともう乗り遅れるんじゃないかというぐらいずっと並んでいますよね。ですから、そういった意味では、北九州空港は便利がいいですと、例えば車で来れば、本来１時間前ぐらいには来てほしいとは思うんですけれど、非常に順調にいく、中でもゆっくりしていただけるようなことがあると思います。ですから、２日間の駐車場キャンペーンもなんですが、あまり皆さん知られていないというのもありますし、もっとそういうメリット、車で来るメリット。とにかく人がたくさん来るようになれば、そこから軌道系、人数がこれだけ来ているんですよっていうのでＰＲもできると思いますし、本当に家族連れだと、まず、電車とか公共交通機関よりも車のほうが絶対便利がいいんですよね。ですから、北九州の都市圏の人だけでもなくて、もう少し福岡に寄ったところの方たちまでも北九州空港にまず来てください、来てみてくださいというような、何かそんなことができないのかなというのがすごい思いの中であります。まず、北九州空港を見ていただいて、そして、少し親しみを持っていただいて、あっ、今度は乗ろうかというところだと思うんですね。

あともう１つ、最近少しパッケージで東京羽田を使うような、もしくは羽田乗換えの旅行企画商品で北九州空港発というのが福岡空港と並んであるんですけれど、旅費が１万円ぐらい高いんですよね、それはすごい不利だなと正直思っています。そういうところをもうちょっと援助ができて、同じにするとか、もしくは旅行会社とかと話をするとか、同じだったら、近いんだったらこっちを使おうと思いますけれど。私もいろいろパッケージを見るんですが、北九州空港を使うとちょっと高い、北九州からただ東京のビジネスパックはそんなに極端なことはないんですが、東京で乗換えで新幹線でどっかに行くとか、東京からまた飛行機で乗り継ぎで行くみたいな数日間のパッケージだと、そういう現状があります。そのことについてどういうふうに思われるかということと。

先ほど港湾労働者の希望者が今少なくて大変だという、人手不足とかもあるということなんですが、空港もグランドハンドリングとか、福岡空港はもう本当に足りない状況みたいですし、北九州空港もそういった空港で働く労働者の関係で、以前に御飯を食べる場所とか少し充実をということで予算をつけていただいて、少し拡充はされていると思うんですが、北九州空港のグランドハンドリングの問題も、これからもし路線が増えたりとかすると結構課題になるのではないかなと思っています。そういった意味で、何か考えておられるのかどうか、お聞かせをいただきたいと思います。

先ほどから国際線の新規就航も非常に重要だと思っていて、当たってほしいと思っているん

ですが、ただ国際情勢がこういうふうになってくると、なかなか海外にというのを少し二の足を踏んでしまう方も正直出ていると思っています。そういう意味では国内の路線を、先ほども申し上げましたけど、パッケージに利用するとか、もしくはチャーターをという考えも必要かなと思います。ちょっと間が入ってしまって大変恐縮だったんですが、その点についてお聞かせをいただきたいと思います。

あともう１つ、定期コンテナ航路も増えていて、増えているのが中国便なんですよね。これは今のところ、特に今、国が中国との影響がいろいろあっていますけれど、北九州とコンテナ船の航路に関しては影響はあまりないのでしょうか、その点もお聞かせください。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長　北九州空港についてお答えいたします。

20周年ということで、まず20周年ということを知ってきてもらいたいといったところでございます。おっしゃいますとおり、20周年は、記念式典は行いますが、その日は感謝祭ということで、空港で食事も含めたイベントなどもやっていく予定でございます。

それと、20周年を機に、今年度からもう行っているんですが、北九州空港でいろんな北九州市だけじゃない圏域自治体の方も集まって物産展とか、例えば、みやこ町だったり、この前も小竹町さんがやったりとか、いろんな圏域自治体の皆様を巻き込んで、ぜひ北九州空港にまず、委員おっしゃいますように知ってもらって、来てもらう、ここの部分を力を入れようとしているところでございます。これは20周年、来年度も引き続きやっていきたい、まず知ってもらい、来てもらい、そして最後は使ってもらう、これは大事だなと考えてございます。

今度は北九州空港のパッケージ商品でございますけども、福岡と比べて高い場合があるという、私どもも見る中でそれは認識してございます。航空会社さんだったり旅行会社さんと話す中では、最終的な金額の細かいところは当然お教えいただけないところはあるんですが、福岡空港はいろんな便数があるのはもしかしたら要因の１つかもしれないなというところがございます。北九州空港の場合は、どうしても東京だったらある程度限られた、スタイフライヤーさんだったらスターフライヤーさんだけ、ＪＡＬさんだったらＪＡＬさんだけというところはありますが、便数が多いんで、選択肢の幅は広がっているところがもしかしたらあるのかもしれないという印象は持ってございますが、これはもうあくまでも価格の話なんで、我々としては常に航空会社さん、ないしは旅行会社さんに北九州空港が使いやすいようにぜひしてくださいというお話はしているところでございます。引き続きこれは要請していきたいなと思います。

それと、グランドハンドリングでございます。

グランドハンドリングは、全国的にはコロナを経て人手不足とかという話はあったんですが、現状、北九州空港は、かなり余裕があるとまでは言えませんが、ある程度対応はできている状況でございます。ただ、ある程度と申しましたように、これがかなり余裕があるわけではないので、来年度予算のほうでも計上させていただきまして、例えば新しく採用しやすい体制、新

しく北九州市内にお住みになって採用した場合に、北九州市から支援するとか、あとグランドハンドリングの企業さんが職場環境を整える、休憩のスペースだったり、そういったものに対して支援する予算も計上させていただいてございますんで、しっかりと支援してまいりたいと思ってございます。

最後、海外、為替の問題もありますし、なかなか難しいんで国内はどうだという話、おっしゃるとおりでございまして、国内も大事だと思ってございます。チャーターは昨年度も十何本か、今年度も既に10本ちょっと、大体それぐらいのチャーターは行ってございます。チャーターについては、最初の話もそうですが、まず北九州を知ってもらうっていうのも大事ですんで、例えば今までほかの路線が飛んでいない下地とか、そういったところに行きたいなっていう方が、北九州に来るきっかけにもなりますんで、このチャーターは引き続きしっかりやっていきたい。チャーターをただやるのではなく、目的を持って、例えば知ってもらうためのチャーターではなく、次に定期につなげるためのチャーター、いろんなことを考えながらやっていきたいと考えてございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）物流振興課長。

○物流振興課長　定期コンテナ航路、中国との問題に関わって影響はあるかという御質問だったと思います。

委員が言われますとおり、船会社は中国の船社が多くございます。結論から申しますと、航路に関しましては何ら問題がございませんということでございます。実際にそれを取り扱う港運事業者様のほうに今状況はどうかをお伺いしましたが、目立って何か影響があるということは物流においてもないと聞いております。ただ、これは肌感覚でという部分はあるかもしれません。統計的にどう出てくるかまではまだ把握ができておりませんので、そこは引き続き注視していきたいなと思っております。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）三宅委員。

○委員（三宅まゆみ君）ありがとうございます。

最後から、航路に関しては、今のところ、影響が出ていないということですので、様々な民間のつながりみたいなものも大事にしながら、国と国はだけど民間同士での取引みたいなことを重要視しながら、また私たち市としても、姉妹都市とかそういったところとしっかり手を携えながら、そういったことが続いていけるように頑張っていただきたいと思っています。

それから、北九州空港です。

パッケージの金額をぜひ同じにしていただかないとやっぱり不利だなと感じています。さっきも申し上げましたが、八幡西区の方とかだったら、3,000円ぐらいで往復特急で福岡まで行けて、いろいろ何だかんだいっても4,000円ぐらいで済む話なので、そうすると１万円高いと、あっ、どっちにしようかなと思ったらそっちを使うことになってしまうと思うんですね。ですから、そこが差異がないようにぜひ頑張っていただきたいと思っています。

それと、アウトバウンドを増やすという意味でもいろんな方に北九州空港に来ていただくのはすごく大事だと思うんですね。もう何なら日帰りで北九州空港を見学するようなバスツアーみたいな、もちろんただとは言いませんけれど、何か御飯を食べて、北九州空港と何かほかにとかというのも、それは港湾空港局がやるべき話なのかどうかはちょっと微妙ではありますけれど、でも空港にとにかく来ていただく市内パッケージみたいな、空港で何かちょっとイベントをやったりとかも大事かなと思います。

それから、先ほど物産展をやられるということなんですけれど、どこかもし場所があったりとかすると、休みの日とかに、今特に主婦の方たちが手作りのものとか様々に持ち寄って、いろんなところでイベントというか、をやっていますよね。空港のどこかの場所でそういうのをやれたら、そういう若い人たちが遊びに来てくれると思うんですね。そういうのも少し試みて、場所があるのかどうかは分かりませんけれど、物産展をやる場所があるのであれば、そういった形で若い人たちに空港にまず近づいてもらうことも１つかなと思います。

それと、空港の横に公園とかは造れないものなんでしょうか。子供たちがすごく喜ぶような、飛行機を模したような乗り物とかをして、そうやって親子連れがまず空港に遊びに来て、今度は乗りたいねみたいな形ができるといいと思うんですが、スペース的な問題とかもあると思いますが、その可能性についてお尋ねします。

○主査（小金丸かずよし君）空港機能強化担当課長。

○空港機能強化担当課長　空港島内に公園がというところの話ですけれども、今土地として活用できるところでいきますと、国が空港施設というエリアを示してございます。それ以外でいきますと、北九州市と苅田町が分譲する用地がございます。それ以外の土地が今現状使える土地ではございませんでして、ですのでそれからいいますと、今駐車場の横が更地になったりしていますけれども、そこも空港施設のエリアの中の一部ですし、繁忙期のときは臨時駐車場に使っている状況でして、なかなか今すぐ公園として使える場所はないのかなと考えてございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）三宅委員。

○委員（三宅まゆみ君）ありがとうございます。

家族連れがとにかく空港に近づくというか、特に空港までの道路ってすごい景色もいいし、気持ちがいいですよね。そういった経験を積んでいただいて、今度は飛行機に乗ろうね、これどこかに行くっていう、とにかくあそこに人を集めることをいろいろとぜひ考えていただきたいなと、そうすることによって、結果として飛行機に乗る方も少しずつ増えてくるのではないかなという思いであります。ぜひよろしくお願いしたいと思います。

グランドハンドリングとか、空港で働く人は、結局不規則な時間で、仕事をする方がだんだん少なくなっている、夜勤とか、夜だったり、早朝とかが嫌だったり、土日を休みたいとかという、特に今の若い方たちの働き方があって、なかなかそういったところが今どこも厳しい。

なおかつ、夏は暑く冬は厳しい、特に空港のコンクリートの上で非常にそういった状況があると思いますので、少しでも状況を改善していただいて、働きやすい環境にしていただくことで、今は辛うじて大丈夫だと思うんですが、今後の路線を増やすとか、それから、今はだから逆に言えば仕事がそんなに忙しくないから多分集まるんだと思うんですけど、仕事が今度どんどん忙しくなったら人手が足りなくなってしまう現状があると思いますので、港湾とか、それから、空港に関する労働者は非常に重要な役割を果たしますので、どちらも働きやすい環境づくりをぜひお願いしたいと要望とさせていただきます。以上です。ありがとうございました。

○主査（小金丸かずよし君）大久保委員。

○委員（大久保無我君）私からは２点お伺いしたいんですけど、まず、アメリカを中心に甚大な被害をもたらした合成麻薬のフェンタニルってあったじゃないですか。あれの原料や製品が名古屋を経由して米国に不正に輸出されていたと、いわゆるフェンタニル問題ですけど、名古屋では、中国の犯罪組織が市内に実態のない法人を登記して、そこを中継拠点として使っていたということで、日本からアメリカに輸出する貨物はクリーンでとても安全だということで、その信用を悪用して、中国の犯罪組織がこれを逆手に取って、産地を偽装して輸出をしていたと、ロンダリングっていうんですかね。ドックフードとか自動車用の油とかでダミーの品目として申請していたということなんですけど、これは日本の信用を悪用する、日本のインフラを使って犯罪行為を行うとても卑劣な行為であって、私は日本の国としての信用をおとしめる事態だと思っています。

それで、本市にも同じようにアジアとか中国と外交があったり、集貨して、国内で内航路線とかが当然あるわけで、このフェンタニル問題、名古屋の事例を受けて、本市の税関とか警察とかの連携みたいなものはどうなっているのか、まず教えていただければと思います。

それから、２点目が、ＲＯＲＯターミナルの整備事業について、先ほどからも議論があっておりまして、今後、見据えていくということでの投資だというお話だったと思います。どのぐらいの規模を拡大するのかを教えていただきたいと思います。今シャーシが何台ぐらい置けて、これが何台ぐらいに増強されますよというのが分かれば教えていただければと思います。以上２点です。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　合成麻薬の問題で名古屋から輸出された貨物に関連をいたしまして、税関とか、関係機関との連携についてのお尋ねがございました。

港湾に関して言うと、いわゆるテロ対策も含めまして、そういう危機管理系の取組に関しましては、例えば警察、門司税関、海上保安部、様々な関係機関と一緒に常に連携を図っていくように、いろんな機会を捉えてやっております。

ただ、例えば通関上のものとか、検疫所のものにつきましては、国の権限になりますので、我々施設管理者ではなかなか具体的なところまではお答えしかねますので、御了承ください。

○主査（小金丸かずよし君）計画課長。

○計画課長　新門司のＲＯＲＯターミナルの整備についてですけれど、新門司ＲＯＲＯターミナルでは、岸壁９メートル、また、泊地９メートルを国で整備するように考えております。また、この背後地について市で整備するようになっておりまして、シャーシが何台止められるかという具体的な数字は、ちょっと今手元にすぐ出ないんですけれど、面積としましては約130メートル掛ける340メートルぐらいのふ頭用地を整備するように考えております。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）大久保委員。

○委員（大久保無我君）ありがとうございます。

ＲＯＲＯ船については長らく本市が取り組んできた貨物の集貨、集積が一層図られるということで、長い取組が一歩大きく前進していくし、徐々に大きく実を結んでいくんだろうと思います。今後を見据えて時期を見逃さずということですので、恐らくいろんな引き合いが来ていると思いますので、引き続き貨物の拠点性を高めていただければと思います。

さっきのフェンタニルの話ですけど、税関とか警察はなかなか市とは関わりというか、市の範囲ではないということなので。ただ、そしたら空港とかの検査機器とかの話もこれは聞いても分からないんですかね、空港や港の検査機器。

○主査（小金丸かずよし君）空港企画課長。

○空港企画課長　北九州空港につきましても、令和３年４月から税関に常駐していただいて、人や組織を増やしていただきながら御対応いただいているところなんですけど、税関でもエックス線の検査装置を導入されて検査をされているところですが、その詳細につきましては我々も把握していない状況です。貨物の上屋に行くと時々来て検査をされていますので、通常やっていただいているんであろうと考えているところでございます。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　港の検査機器の関係でございます。

例えばですけれども、太刀浦コンテナターミナルの背後に税関の施設がございまして、コンテナの検査施設になりますが、そちらに機器は置いてございます。引き続き、税関とか、検疫の関係の機関とか、そういったところと意見交換しながら取り組んでまいりたいと思います。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）大久保委員。

○委員（大久保無我君）分かりました。

空港と港の検査の関係は、基本的には市ではなくて税関ということですね。

分かれば教えてほしいんですけど、国際航路の検査は、例えば東京とか名古屋とか大阪とか、主要なところと北九州市とか、国際航路があまりないようなところだったら、レベルみたいな違いがあるのかどうか。検査機器のすごいやつが置いてあるとか、体制がこれだけ違うよみたいな、何か違いがあるのかどうかだけ教えていただければと思います。分かればでいいです。

○主査（小金丸かずよし君）港営課長。

○港営課長　恐らく港も空港もそうだと思いますけれども、それぞれの関係機関のところで、都市の規模とか、対象の範囲、そういった規模に応じて配置が決められているものと考えております。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）大久保委員。

○委員（大久保無我君）規模によって違ってくるということですね、分かりました。ありがとうございます。

物流都市としての北九州市は、こういう荷物の信頼の上に成り立っていくんだと思いますので、北九州市としてはなかなかここに関わりが難しいかもしれませんけども、北九州市経由の貨物の安全性に問題が出るということになったら、町としての信頼も揺るがしかねないので、引き続き関係機関と連携を取っていただいて、こういう信頼をしっかりとまた引き続き築き上げていただきたいと思います。以上で終わります。

○主査（小金丸かずよし君）ここでしばらく休憩します。再開は午後１時といたします。

（休憩・再開）

○主査（小金丸かずよし君）定刻となりましたので、再開いたします。休憩前に引き続き質疑を行います。質疑はありませんか。廣田委員。

○委員（廣田信也君）よろしくお願いいたします。

私からは４点ほどお伺いさせていただけたらと思います。

１点目が、新門司地区のＲＯＲＯターミナル整備事業について、いろいろ意見と答弁をいただいているかと思うんですが、一部確認で。こちらの事業については、来年度の予定としてはどういったことを行うのかと、また、今後の予定についてお聞きできたらなと思っております。

２点目が、海上モーダルシフト促進事業についてお伺いいたします。こちらが令和７年度より予算が減っているかと思うんですけれども、その経緯についてお伺いできたらと思います。

３点目が、太刀浦第２コンテナターミナルのチェッキングブリッジに関してですが、これも議論が出ているところでございますが、チェッキングブリッジの出来上がりの時期についてお伺いできたらと思います。

最後に、新「みなと」と「子ども」の未来づくり連携事業について、どういった場所で行うのか、概要を教えていただきたいと思います。以上、よろしくお願いします。

○主査（小金丸かずよし君）整備課長。

○整備課長　ただいま新門司地区ＲＯＲＯターミナル整備事業についての御質問がございましたので、答弁したいと思います。

近年におきまして、フェリー、ＲＯＲＯ貨物の輸送需要の増加に対応するため、新門司南地区におきまして、新たなＲＯＲＯターミナルを国と連携して整備するものでございます。

具体的には、国で岸壁と泊地、そして、市で荷さばき地、それから、臨港道路を整備してい

くものでございます。現在の状況ですが、昨年12月、国の事業評価で認められたところでございまして、引き続き国に対して早期事業化に向けて働きかけを行っているところでございます。市としては、今後の事業化を見据えまして、すぐに対応できるよう、市の事業に必要な予算として、令和８年度としましては実施設計と用地取得における費用約６億6,000万円の予算を計上しているところでございます。

今後におきましては、令和10年代の前半にも完成するよう努めていきたいと思っております。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）物流振興課長。

○物流振興課長　モーダルシフト促進事業につきまして、なぜ減額になったかという御質問についてお答えいたします。

物流の2024年問題を背景にしまして、陸上輸送の一部を海上輸送に転換する、いわゆるモーダルシフトを推進するために、令和６年度より海上モーダルシフト促進事業を実施しております。

この取組が功を奏しまして、この２年間、多くの事業者の皆様に海上輸送へのモーダルシフトに取り組んでいただきまして、現在、各フェリー会社ともに平日のフェリー利用は満載に近い状態が続いている状況でございます。

一方、事業者にヒアリングをさせていただきましたところ、平日は予約をお断りする状況も多々あると、一方週末はまだまだ受入れに余裕があるという御意見がございました。そのため、平日利用を促進するための支援としては、行政としての役割は一定程度終えたと判断いたしまして、平日利用に係る補助を縮小する決断をしました。

一方で、各事業者が休日、休業日とすることの多い土日につきましては依然として利用に余裕がありまして、モーダルシフトをさらに拡大していく上ではまだ開拓の余地が残されているところから、土日利用に焦点を当てて支援を継続していくこととしました。これが減額の理由でございます。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）業務担当課長。

○業務担当課長　太刀浦第２コンテナターミナルで現在施工中のチェッキングブリッジ更新工事の完成予定について答えさせていただきます。

太刀浦第２コンテナターミナルの入り口でトラックが積載しているコンテナのチェックを行っているチェッキングブリッジの更新工事は、１期と２期に分けて行うことになっております。１期につきましては令和７年度から実施をしているところですけれども、本来であれば令和７年度中に第１期工事の完成を目指していたんですが、建築工事のため地中の掘削をしていた現場で、障害物とか硬い岩など地盤条件が想定より厳しかった状況から、完成が令和８年７月中にずれ込む見込みになっております。７月中に第１期工事が終わった後に、市の想定としては８月から第２期工事入りまして、これが全体的に２か年にわたる見込みになっておりますので、

最終的なチェッキングブリッジの完成予定は令和９年度になろうかと思っております。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）クルーズ・交流課長。

○クルーズ・交流課長　新規事業である「みなと」と「子ども」の未来づくり連携事業の概要について説明させていただきます。

これは大きく２つに分かれます。イベント、にぎわいに関するものと、あとは港の仕事の魅力を発信するものになっています。

１つ目につきましては、関門エリアにおいて、下関市で昨年末にホテルが開業し、門司港では今年の夏にホテルが開業する予定です。そこで、宿泊や滞在時間を延ばす環境が整ってきた形になります。

そこで、下関市にもみなとオアシスがありまして、我々としては、みなとオアシス下関と、また、門司側では他局と連携を図りまして、関門エリアを１つの面として捉えまして、連携による周遊性の向上や滞在時間を延ばす夜の帆船を生かしたイベントを実施する予定です。

具体的には、北九州港開港記念イベントを中心に、下関市と連携して、みなとオアシスの構成施設を周遊していただきたいと考えています。また、開港記念イベントに来ていただいたお客様については、昼間に来られるので、門司港で行われる夜のイベントに誘導していきたいと考えています。

もう１つの港の仕事の魅力発信につきましては、募集型ではない学校単位のシップスクールという船の仕事や港について触れて学ぶ機会を、協力を得ながら開催していきたいと考えています。以上になります。

○主査（小金丸かずよし君）廣田委員。

○委員（廣田信也君）皆様ありがとうございました。

ではまず、ＲＯＲＯターミナルの件から進めてまいります。国との調整のさなかで、先行して進めていただいているということで一つ安心をしました。令和10年に実行できるようにということで、私も船の泊め場所が増えたらいいなという思いがすごくありましたので、これからも促進していただきたいのと。令和10年ということで、先ほど大久保委員からもありましたけど、ここを使いたいという問合せは入っているんでしょうか。

○主査（小金丸かずよし君）計画課長。

○計画課長　寄港の意向を示している船社は複数ありますけれど、まだ船社の名前を言えるレベルではございません。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）廣田委員。

○委員（廣田信也君）企業名とかは伏せていただいて全然大丈夫ですが、そういった魅力があるというので問合せが来ているというところで、このまま進めていただきたいなと思います。フェリーの貨物量も今年過去最高ということで、使える岸壁が増えれば、またこれからますま

す伸ばしていけるんじゃないかと思いますので、引き続き頑張っていただければと思います。よろしくお願いいたします。

次に、モーダルシフトについても、平日に関しては一通り役目を終えたということで、確かに土日の利用が少ないのが課題とは伺っていましたので、そういった部分で政策の流れに一定の理解を示しました。土日だけで、平日の補助が出なくなるというところですけれども、これまでつながっていた方が、やっぱりやめたとならないように、いろいろと御意見等はしっかりと聞いていっていただけたらと思っております。

続きまして、チェッキングブリッジの件ですけれども、公明党の秋野参議院議員が、令和７年11月27日に参議院の厚生労働委員会で太刀浦コンテナターミナルの件を質問しておりまして、そのときに厚生労働省から、こういった休憩の設備等については各港において関係者間での話合いが行われるように関係省庁とよく相談してまいりたい、熱中症予防の観点からは、当該休憩の設備はできる限り作業者が速やかに利用できる場所に設置することが望ましいと考えているところで、今後、関係省庁とも連携しつつ、関係者にそういったことを示していくことを検討してまいりたいと答弁をいただいておりますので､そういった形で皆様が働きやすい形、そして、令和９年度に完成ということで、今３月ですので、６月ぐらいになると暑くなって、昨年、本当に休憩場所がないといったお声もいただいておりましたので、早い段階で動いていただけるように、引き続き進めていただきたいと思っております。

最後の新「みなと」と「子ども」の未来づくり連携事業についてお聞きしたいのが、関門海峡ミュージアムがあるかと思うんですが、広場のところの管轄は港湾空港局だったと思うんですが、そこを使って何かされる予定はあるんでしょうか。

○主査（小金丸かずよし君）クルーズ・交流課長。

○クルーズ・交流課長　先ほど申しました開港記念イベントのときに、広場を使ってイベント等をやっております。

○主査（小金丸かずよし君）廣田委員。

○委員（廣田信也君）ありがとうございました。

あとは、関門海峡ミュージアムは県も市も入っている施設だと思いますし、私も本会議で発言させていただきましたが、ＢＥＢ５の星野リゾートさんのホテルができますので、そういったところで、あとは門司港レトロ課とも連携していただいて、船を使って関門をつないで、関門地域を皆様に周遊していただき、そしてまた、門司港に産業も、あとナイトコンテンツの発展もできるようにお願いできたらなと思っております。私からは以上で終わります。

○主査（小金丸かずよし君）冨士川委員。

○委員（冨士川厚子君）私から３点空港について質問させていただきます。

まず、北九州空港20周年おめでとうございます。今回、北九州空港20周年記念市民還元事業で200万円の予算を計上して、羽田空港の割引キャンペーンを実施ということですが、１回に対

して200万円でどれだけ割引があるのか教えてください。

今日、20周年ということで格納庫キャンプをされるとニュースで見ました。私は最初３万円かと思ったら、33万円で、結構高額だなと思ったんですけれども、対象は外国人とか富裕層とか、どういう方を対象に、スターフライヤーさんがされるんですけれども、もし分かれば教えてください。

最後に、今戦争の影響で燃油が高騰して、航空業界もニュージーランド航空が1,100便欠航、カンタス空港が運賃５％値上げと、このような世界情勢の中で、分かる範囲で、航空券とかが値上がりする、もしくは欠航とかが考えられるのか。今もうニュージーランド航空で1,100便欠航と出ているのを見ると、日本でもそう遠くない話になるのかなとかも思ったりするんですけど、分かる状況があったら教えていただけたらと思います。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長　まず、北九州空港20周年記念市民還元事業でございます。

200万円で、20周年を機に、少しでも北九州空港を利用していただく方が増えればという一環でございます。

ただ、金額が200万円ですので、羽田線で5,000円掛ける200人と今想定してございます。羽田線は２社ございますので、合計で200万円、5,000円掛ける200名掛ける２社、ＪＡＬ、スターフライヤーさんと考えてございます。

○主査（小金丸かずよし君）冨士川委員。

○委員（冨士川厚子君）ＪＡＬも使える。

○主査（小金丸かずよし君）旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長　そうです、ＪＡＬさん、スターフライヤーさん、羽田線は両方ございますので、今ざっくりとはそういう形で考えてございます。

それと、スターフライヤーさん、ＪＴＢさんと共同で企画している格納庫のキャンプといいましょうか、宿泊体験でございます。委員がおっしゃいますように、私も報道等でも見ていますが、２人で入っても１人19万円幾らで非常に高いなとは思っていますが、その分、格納庫の中で宿泊して、飛行機がプッシュバックする場面が見られたり、そういう１個上のサービスといいましょうか、いろんな特別感はあるのかなとは思ってございます。

ターゲットは誰かというと、すみません、委員がおっしゃいますように、我々もこの方ですとは言いにくいところですが、幅広いターゲットを目指しているのではないかなと考えてございます。

燃油高騰でございますが、今現在、航空会社からそういう話を聞いている状況ではございませんが、燃油は一つ大きなところでございますので、今後、いろいろ航空会社も考えてくるとは思ってございます。いろんな意味で、我々も路線の維持ができるようにしっかり頑張っていきたいと思ってございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）冨士川委員。

○委員（冨士川厚子君）まず、割引で5,000円ということですけど、チケットの買い方も安く買う、早く２、３か月前から9,000円とかで買う方もいらっしゃるし、ぎりぎりで５万円とかで買う方もいらっしゃって、そこの線引きは先着順とかになるんですかね。何か考えていたら教えていただけたらと思います。

○主査（小金丸かずよし君）旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長　こちらは今パッケージ商品を想定しておりまして、チケットだけというよりも、北九州市から東京に行って、往復プラス宿泊とかがついたパッケージ商品で考えております。買い方は先着で考えております。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）冨士川委員。

○委員（冨士川厚子君）分かりました、ありがとうございます。

20周年はすごく大きいなと思いますし、私もゼネコンに勤めて、北九州空港が更地のときからずっと広報で撮影に行かせていただいて、あれから20年、私も年を取ったんだなと思うと感慨深いものがあるんですけど、北九州空港20周年記念市民還元事業が金額200万円と、もうちょっとお金をつけられなかったのかなと。実際5,000円で200人でしたっけ、人口が90万人と言われている中の200人はどうなのかなというのもあります。してくださることはありがたいんですけれども、もうちょっと予算を取って、魅力向上で、今議会でも北九州空港機能強化・利用促進等調査特別委員会をつくっていますし、北九州空港滑走路が3,000メートルになるとか、皆さんいろいろ力を入れているときに、もうちょっと皆さんに還元できたらなと思います。コロナ禍でも、たしか市からスターフライヤーさんに10億円を、様々な議論を経て支援した記憶もありますし、北九州市民への還元という部分で、これはもう予算が決まっているからこれからは難しいかもしれないですけど、もうちょっとアイデアを、先ほど三宅委員も言われていましたけども、もうちょっと北九州空港を使う魅力というのを発信していただきたいなと思います。

空港ができて20年で、市民の半分ぐらいは１回ぐらい、どのぐらい利用したと今認識されていますでしょうか。

○主査（小金丸かずよし君）旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長　市民還元事業は200名掛ける２社ですので合計400名ではございますけども、羽田線に関しましては、20周年ということでやってございますが、いろんなところで市民の方が安く行けるような、そういう施策は今後も打っていきたいなと、安くといいましょうか、利便性が高まる施策は打っていきたいなと思ってございます。

市民の方が今どれぐらい利用したかというところ、以前からもいろいろ議会でも御指摘いただいているように、エリアによって大分変わってくる部分はあろうかと思います。若松区とか、八幡西区とかは、先ほど午前中もお話がありましたが、まだ使っていただいていない方もいらっしゃると思いますし、小倉南区の方々は空港を使う人は必ず当たり前のように北九州空港だ

ろうと思っています。ですので、空港利用者を増やす、これは行く用事がないと使わないんですが、使うときは北九州空港を使っていただくのが大事だと思っていますので、特に、西方面とかは集中的にチラシを配ったりとかもやっていますので、ターゲットを絞って、一人でも増やしていきたいなと考えてございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）冨士川委員。

○委員（冨士川厚子君）一度来ないと北九州空港の距離感とか利便性はなかなか分からないと思うんですね。佐賀県に佐賀空港がありますけど、先月、１月から２週間でキングダムとコラボして、小さいお皿、有田焼か何かを作って２万7,000円ぐらいで売ってすごく売れたし、空港特別展が２週間で来場者が２万4,000人来たという報道を見て、何かしらイベントするスペースは空港であると思うんで、地元の野菜を売るのも大事ですけど、もうこの空港でしか見られないイベントをしていくというのはすごく大事じゃないかな、そうすると絶対足を運ぶと思いますし。

特に旅行に行くときとかは女性の意見、若い人の意見がすごく大きい、家族だったら、お母さんが北九州空港より福岡空港のほうがいっぱいお店があるから福岡から乗ろうよと言ったら、小倉南区に住んでいようが福岡から乗ると思うんですね。だから、ほかにも佐賀空港は何かポップアップショップみたいなものをされているというのを見ましたし、そういう北九州空港でしか見られない、買えないということを、これから力を入れて女性の目線でやっていただけたらなと思います。

また、佐賀空港はアプリもつくっているみたいで、ＡＮＡ　ＦＥＳＴＡとかＪＡＬのショップでそれを見せたら５％引きで物が買えるということでした。そういうのも北九州空港でつくると、ちょっとまた井筒屋で買うんじゃなくて、空港でお土産が安くなるから買おうかとか、ポイントもたまるようでしたし、何かしらアピールの仕方というのが、そこはぜひ積極的に取り組んでいただきたいなと思います。今後、何かそういう目玉イベントとかを考えていたら。

○主査（小金丸かずよし君）空港魅力向上担当課長。

○空港魅力向上担当課長　今現在、北九州空港におきましては、空港ビルを管理しています北九州エアターミナルと連携しながら、各取組を進めているところでございます。

今年度については、各イベントの実施を、まずは空港圏域の自治体さんと一緒に取り組んできたところになります。この取組は各自治体に限定するものではございませんので、今後、民間で希望される方々にも、御興味があればぜひ北九州空港でやっていただけるように取組を順次広げていきたいと考えております。

たくさんの方々に、家族連れの方とか、若い方々に楽しんでいただける取組が何があるのかといったところ、今空港全体でエアラインさんを含めて、あとテナントさん、そういった方々と一緒になって、まずお客様に知ってもらって、来ていただいたときにどういう喜びを与えられるのか、満足していただけるのかをみんなで一生懸命考えてございますので、北九州市も積

極的に関係者の方々と連携しながら、しっかりと取り組んでいきたいと考えてございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）冨士川委員。

○委員（冨士川厚子君）漫画とかも北九州市はいっぱいコンテンツもあると思いますし、いろんなところと力を合わせながら、もっともっと、もう福岡空港と悩まなくても、ああ、北九州空港から乗ろうと市民の方が思える空港になってもらいたいなと思います。

格納庫のキャンプも分かりました。格納庫に泊まって、飛行機とかにいたずらされたりとかいろいろ考えたら、どんな人が来るか分からないのに、夜中とかも急に滑走路を走り出す人とかがいたらとかいろいろ考えたら、そういう警備で33万円なのかなとかと思ったりもするんですけど、朝も８時には出ないといけないので、値段の割には結構サービスが悪いのかなとかと思ったり、失礼ですけど、ごめんなさい。テロとかそんなのは別に大丈夫なんですかね。何かあったときに誰が責任を取るんですか。

○主査（小金丸かずよし君）旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長　委員がおっしゃるような心配はあろうかと思います。警備体制もしっかりしないといけないとはもちろん考えていらっしゃると思いますので、そういったところも含めての料金になっているのではないかなというところでございます。朝早く出るのですが、その分ふだん絶対見られないところを見られる特別感があるのかなと、すみません、これは私の感想でございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）冨士川委員。

○委員（冨士川厚子君）ちゃんと全部売れればいいなと、また、そこからその人たちが北九州空港を発信してもらえるようにしていただきたいなと思います。

また、燃油の高騰は承知しました。また、何かそういう情報があったらしっかり市民の皆さんとかにもすぐ伝えていただけたらなと思いますので、よろしくお願いします。

いろいろ言っていますが、応援していますので、よろしくお願いします。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）渡辺委員。

○委員（渡辺修一君）よろしくお願いいたします。せきが出ているんですけど、インフル、コロナは陰性でありましたので、すみません、御迷惑をおかけします。

私から３点聞こうと思っていたんですけど、空港のことは今冨士川委員がしっかりお伝えさせていただきました。福岡空港が旅する空港として複合施設を造る中で、私も北九州空港にもっとしてほしいのは、飛行機に乗らなくても、この北九州空港が目的地となるような、そういった空港だと市民が感じられるような空港にしていただきたい。以前、宇部空港のことを質問に出させていただいたんですけど、宇部空港は隣に大きなインクルーシブ公園を有する空港施設でありまして、周りの介護施設の方が利用者さんを連れてきて、空港内のバラ園でバラを見ながら、行き交う飛行機を見て感動している姿を見たりとか、空港自体は小さい空港で、利用

者もそんなにいる感じに見えないんですけれども、この空港にいる人は多かった印象があるので、そういった、北九州空港も利用しないんですけれども、空港を目的地として行くような空港にしていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

２点目が、クルーズ船誘致・受入事業ですけども、毎回私も聞いているんですけれども、令和８年度は寄港予定が９回になっております。令和７年度は、この６月までは８回、合計17回で、新規入港が令和８年度は６月時点で２回、令和７年度は全体で６件という報告を受けているんですけれども、今の令和８年度前半の時点の９回、今大型クルーズよりも小型ラグジュアリー船が主流になって寄港していると思うんですけれども、この経済効果、大型クルーズ船が来て、北九州市で買物をしたり楽しむものと、この小型ラグジュアリー船が、富裕層の方が多いと思うんですけれども、そういった方々が北九州市で楽しむ、この経済効果はどう受け止めているのか、教えていただければと思います。

３点目が、洋上風力発電ですけども、３月２日に我が国最大級の洋上風力発電が稼働し始めまして、すごい期待をしています。以前、私は令和６年２月の定例会で、単なるエネルギーの供給源にとどまらず、稼げる町の実現へと向けた産業観光の柱となるべき洋上風力にという質問をさせていただきまして、当時の佐溝港湾空港局長からも前向きな答弁をいただいておりました。

一昨年だったと思うんですけど、グローバルウインドデイに参加させていただきまして、関連企業とか、間近で洋上風力を見たときにすごい感動をしたんですけれども、これも毎回、子供たち、親子連れが殺到して、人気の見学会になっていると思うんですけれども、今議会でも公明党議員団の成重団長が皿倉山や高塔山を視察し、そこから見える25基の風車群の圧倒的な景観、価値を確認しておりますという質問もさせていただきました。

営業運転が開始されて、風車を間近で体験できる洋上見学クルーズなど、港湾区域を活用した観光コンテンツ、今、九電旅行サービスさんが見学サービスを打ち出しておりまして、２月16日に第２回目の応募があって、殺到しているみたいで、その日のうちに締切りみたいな、次はもう６月１日からで８月１日に実行するみたいなことでお聞きしているんですけれども、そういった民間企業との連携、このグローバルウインドデイのようなイベントを通じて、風力発電の製造、保守点検の現場を見せること、これは本市の産業のＰＲにも直結しますので、今後、この産業観光をどのように進めていくのか、もう一度お聞きしたいと思います。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）クルーズ・交流課長。

○クルーズ・交流課長　クルーズに関する経済効果について質問いただきました。

まず、回数で説明させていただきます。

先ほど委員からもおっしゃっていただいたんですけども、2025年は17回、そして、2026年は新規入港５隻を含むんですが、今のところ14回の予定となっています。これについては若干減少しているんですけども、昨年来ていただいた船が日本周遊を取りやめたということが起こり

まして減少しています。ただし、長期で誘致しておりまして、2027年については今のところ20回で、全体的には増加傾向という形で引き続き誘致してまいります。

経済効果についてですが、クルーズを受け入れると、経済効果としては大きく２つ、クルーズ会社から地元企業への入港の際の業務発注などの支出、そして、乗客の観光消費の２つの側面が期待できます。

具体的に言うと、船会社からタグボートとか、綱取りという業務があるんですけども、そういったことで業者に支払いが行われ、行政にも港湾使用料が支払われております。

観光消費としましては、観光施設の入場料、そして、お土産代などが支払われているということで、先ほど申された大体400人ぐらいのお客さんが乗った船で、我々としては約600万円ぐらいの経済効果があると試算しているところです。

我々としましては、今後、来たお客さんにより多く支出していただきたいということで、例えば体験物を増やしていくとか、あとは商店街に行って散策、そして、購入していただくようなことをやっていきたいと思っております。以上になります。

○主査（小金丸かずよし君）洋上風力拠点化推進課長。

○洋上風力拠点化推進課長　産業観光についてお答えいたします。

産業観光自体は都市ブランド創造局の所管になっております。

ただ、一方で、先ほど委員がおっしゃられたグローバルウインドデイとか、ひびきウインドエナジーが主催で行っております洋上見学ツアーは、私ども港湾空港局で実施している事業でございます。

こういった個々の集客事業は我々で継続してやっていくんですけれども、これを都市ブランド創造局観光課等と共有しながら､魅力ある観光づくりにつなげていきたいと思っております。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）渡辺委員。

○委員（渡辺修一君）ありがとうございます。

まず、クルーズ船なんですけれども、門司港はクルーズ船が着いて本当にすぐレトロがありますので、降りてすぐにもう楽しめるという立地条件があります。また、博多港はアジアの玄関口として圧倒的な寄港があるんですよね。また、下関は歴史とフグが堪能できるという魅力がある中で、北九州市としてこのレトロがすぐの条件とか、またひびき港に関しては、できるかどうか分からないですけど、まさしく洋上風力を縫いながら、ひびき港に寄港していくという体験もできるのではないかなと思うんですけれども、この北九州市にしかないような利便性というか、体験をどのように考えておりますでしょうか。

○主査（小金丸かずよし君）クルーズ・交流課長。

○クルーズ・交流課長　欧米船が今多く来ているところなんですけども、我々として北九州市ならではの体験というところでは、やはり小倉城が福岡唯一の城で、下関に船で来たお客さん

もやはり小倉城に向かってきていただいて、しかも博多港に来たお客さんも小倉城に来ていただいているので、まずは入城していただくと。小倉城庭園で体験物を、お茶とか、小倉織とかをやっていただいたり、最近、日本のお客さんについては、小倉城庭園でおすしを提供できるということで、そのお話も進めているところになります。以上になります。

○主査（小金丸かずよし君）渡辺委員。

○委員（渡辺修一君）ありがとうございます。

北九州市しかないような、北九州市ならではのそういった体験ができるようなクルーズ船誘致を進めていただきたいのと。

先日、公明党議員団で西鉄バスのオープントップバスの視察に行かせていただきました。この時期はまだまだ寒いのでなかなかお勧めできないかなとは思ったんですけれども、３メートル以上ある屋根というか、オープントップバスはかなり刺激的なものになるんじゃないかなと思いますので、クルーズ船の誘致で西鉄バスのオープントップバスと共有するとか、そういった働きもぜひしていただければと思っております。

これからもしっかり期待しながら､小型ラグジュアリー船をどんどん取っていただきながら、北九州市の稼げる町に寄与していただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それと、洋上風力は分かりました。私はさっきもクルーズ船と絡めたんですけれども、洋上風力は可能性をすごく秘めておりますし、電力供給源だけじゃなくて、これから子供たちが洋上風力を見て、そういった関連の仕事に就きたいとかと思うような仕掛けをどんどんつくっていただきたいなと思っております。また、都市ブランド創造局としっかり連携して、先ほども言いました稼げる町にしっかりとプラスになるよう、ぜひともいろいろ考えていただきたいなと思いますので、よろしくお願いします。以上で終わります。

○主査（小金丸かずよし君）村上直樹委員。

○委員（村上直樹君）お願いします。

まず、私も北九州空港魅力向上事業についてお伺いしたかったんですが、今かなり冨士川委員が質問をして、もう答弁もかなり得られたんですけども、冨士川委員が佐賀空港の取組の話をされていたかと思うんですけども、いろんな空港が同じような取組をやられているかと思います。例えば、福岡空港は商業と飲食機能を充実、何回か行ったことがあるんですけども、すごいなと思いながら、滞在したくなる空港をもう既に実現しています。例えば北海道の新千歳空港は温泉ミュージアムですね、空港自体が目的地になり得るような取組をしています。沖縄那覇空港も、沖縄文化とか観光資源を前面に出した演出をして、地域性をすごく打ち出しております。だから、独自性というか、ほかの空港にはない取組、差別化の必要があるんじゃないかなと思います。

先ほどのスターフライヤー格納庫のテントでの一夜というニュースを私も見たんですけど

も、私も19万2,500円ですごいなとは思ったんですけども、ただ格納庫は航空ファンにとってはすごく興味がある施設でしょうから、多分全国から申込みがあるのかなと思っているんですけども、ただ国内初らしいですから、これは今回のこの事業の１つなのかなと私はてっきり思っていたけど、そうではないみたいです。

お伺いしたいのは、独自性を出すという意味では、北九州空港の魅力とは何なのですかね、それをまずお伺いできればと思います。

それから、港も廣田委員が言っていました、「みなと」と「子ども」の未来づくり連携事業をやられるかと思うんですけども、これは関係局とか下関市と連携して関門エリアの周遊性向上や夜の船舶を生かしたイベント、また、港の仕事の魅力発信などを行うということですけども、この文章を見ていると、港湾分野の人材確保を目的とした事業なのか、それとも関門エリアの魅力向上とか観光振興を目的とした事業なのか、基本的な位置づけをお伺いできればと思います。見ていると、人材確保等の観点とエリアの魅力向上の観点の両方が含まれているように見受けられるんですけど、そこをお伺いしたいと思います。２点お願いします。

○主査（小金丸かずよし君）空港魅力向上担当課長。

○空港魅力向上担当課長　北九州空港の魅力について答弁差し上げます。

まず、北九州空港の特徴ですけれども、海上空港であることが上げられるかと思います。24時間運用可能で、海上で連絡橋でつながっておりまして、かなり開放的な中に立地している空港であるというところがまず上げられると思います。連絡橋を通っていく、空港に行くわくわく感が味わえる空港であると考えております。

また、空港の中での話ですけれども、貨物機が北九州空港の中に泊まっている、例えばＵＰＳさんとか、ヤマト運輸さん、これはフレーター機という貨物専用機になります。特徴としては窓がない機体で、荷物専用の機体があるという、なかなかほかの空港では見られないところになります。３階の展望室から多くのお客様が飛行機を見に来られておりますけれども、あれは何ですかと何度も聞かれたことがあります。そういった一般の旅客以外でも飛行機、貨物があるところが北九州空港の魅力ではないかと考えてございます。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）クルーズ・交流課長。

○クルーズ・交流課長　委員から、「みなと」と「子ども」の未来づくり連携事業について質問をいただきました。

まさに委員のおっしゃるとおりで、魅力の発信と人材育成、この２面をやっていきたいという事業になっています。

具体的に魅力については、今までイベント等をやってきたんですけども、今後は下関とも一緒に、ほかの局と連携して、より長く滞在していただけるイベントにしていきたい。

もう１つ、人材育成につきまして、小学生向けについては、まずは船の役割とか船に触れてもらう、そして、中学生向けについては、進学先として船の学校があるんだよということを知

ってもらいたいという事業をやっていこうと思っております。以上になります。

○主査（小金丸かずよし君）村上直樹委員。

○委員（村上直樹君）ありがとうございました。

魅力は、海上空港、24時間使えることはもう前々からよく言われているんですけども、そうですよね。

このスターフライヤーの格納庫でのテント一夜で、さっき冨士川委員からもテロの心配はないのかという話も出ていましたけども、空港なんで、多分できないことも結構あるんだろうと私自身も思っていたんですけども、こういうことができるんなら結構いろんなことができるのかなと思いながら、例えば空港は海の中ですから、幾らどんちゃん騒ぎをしようと、騒音の問題とかも全くないんだろうとも思いますから、例えばあの中にグランピングができるドームを造ったりとか、バーベキューができるエリアをつくったりとか、そういったことができないかなとか。あの辺はどうなのかな、24時間ですから星空の見学会をやったりとか、そういうこともできるのかなとちょっと思いました。

それとあと、以前本会議でも私は取り上げたことがあったんですけども、海上空港ですからシーアンドエアができる空港ですから、ぜひ北九州市独自で扱える護岸の整備をしてくれと要望したことがあったんですけれども、今、国が管理している護岸があって、あれはしゅんせつ土砂をどんどん使っているかと思うんですけども、それを整備すれば、あそこから逆にクルーズ船を出したりとか、シーアンドエアというか、去年、都市ブランド創造局がフライアンドクルーズということをやったんですけども、これからも毎年やるんですかと聞いてみたら、揺れが大きかったということで、来年度はやりませんと聞いたんですけども、ああいったものがもうちょっとうまくできるようになれば、それこそ北九州空港の独自性が出せる事業になるんじゃないかなと思いますので、その辺も検討の１つにぜひ入れといていただければと思います。

それから、エンタメスポットとしての空港とあるんですけども、このエンタメスポットの位置づけとはどういうことなんですかね、どういう意味合いなんでしょうか。

○主査（小金丸かずよし君）空港魅力向上担当課長。

○空港魅力向上担当課長　北九州空港は、まず空港ということで様々なお客様が北九州市内に入って来られる玄関口で、北九州市の様々な魅力、７区ありますけれども、市がそれぞれいろんなところで持っている漫画とか、すしとか、様々なコンテンツを情報発信できる場と考えております。現在は、ビジネスの方がメインで使われていて、なかなかシンプルで機能的な空港ではあるとは思うんですが、そういった皆様を楽しませるというところは、まだまだ向上する余地があると思っておりますので、そういった意味でエンターテインメント性を上げていくということで、空港として活用していきたいと、そのように考えてございます。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）村上直樹委員。

○委員（村上直樹君）ありがとうございます。

今いろんなことを情報発信と言われました。情報発信だけじゃなくて、空港の中でいろんなイベント事をやったりとか、そういったことも考えられているんですか。

○主査（小金丸かずよし君）空港魅力向上担当課長。

○空港魅力向上担当課長　委員がおっしゃられるとおり、各区との連携といったところでイベントの実施も考えておりますし、新たにデジタルサイネージ等を入れて、それを媒体として情報を発信していく、そういったことも考えてございます。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）村上直樹委員。

○委員（村上直樹君）ありがとうございます。

単発的なイメージじゃなくて、常設的に継続できることをぜひやっていただければと思います。私も応援しているんですよ。

それから、「みなと」と「子ども」の未来づくり連携事業は、２つの観点が含まれているということで、よく分かりました。これもしっかりと応援をしたいと思いますので、頑張っていただければと思います。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）ほかに質疑はございますか。自民党、村上幸一委員。

○委員（村上幸一君）私も空港について質問させていただきたいと思います。重なる部分も多いと思いますけど、まず、来年は滑走路が3,000メートルになるということで、もう既に国際線やＬＣＣの誘致活動に取り組まれているんじゃないかなと思うんですが、3,000メートル化を控えて今どういう活動をされているのか、お聞かせいただきたいと思います。

それと、毎回議会でも質問しているんですけど、北九州空港だけが旅客が伸び悩んで、福岡空港はもう国内線も国際線も過去最高を更新していくという状況の中で、北九州空港だけが３割近く減っているという状況から見ると、今公明党さんが言われたとおり、いろんなことで増やしていく努力をしていかないといけないと思います。その中で路線を増やすことは今言った3,000メートル化が１つのチャンスだと思うんですが、便数を増やすためには、今ある旅客をもっと増やしていかないといけないと思うんですよね。それで、北九州空港利用者は特徴があって、これは港湾空港局からいただいた数字なんですけども、苅田町の人は98％以上が北九州空港を使っていると、それから、同じようにみやこ町の人も96％、小倉南区の人も92％ぐらい使っています。それに比べて、若松区の人は残念ながら61％しか使っていないです。

それで、八幡西区はこの日だけ数字がいいんですけど、私も知り合いの旅行社に確認したら、小倉の旅行社の人は、東京便だけに限定したら大体８割ぐらいが北九州空港、残り２割が福岡空港と、八幡西区の旅行社に聞くと、福岡空港が６割で、北九州空港が４割だと言っていました。その理由はいろいろ言われていましたけど、利便性とかほかにも情報があると思うんですが、ここは空港の担当の方は無理してでもお願いに行かないといけない。僕は新北九州空港ができる前、旧空港のときは、チャーター便で米子まで行ったりとか、市の担当者の方と一緒に行ったりとか、東京に行くときも必ず北九州空港を使っていたんですけど、帰りはなぜか知ら

ないけど、下りられずに福岡空港に着くわけですよね。そういったこともいろいろ経験しながら、新北九州空港ができるためにと思って、団体で新北九州空港ができるときのためにいろんな活動をしてきた気がします。今そういったことを、特に可能性があるのは働いている人、特に会社経営をしている人とか、そうした人たちをターゲットに絞っていくべきじゃないかなと私自身は思っておりまして、特に北九州市の西部地区の市町村も含めて、昨日、実は政策局に連携中枢都市圏の北九州都市圏の自治体職員に対して絶対使うようにと、ぜひディールをやってほしいと、そこまで言いました。もう取引してでも市町村の方にぜひ使ってほしいという話もしています。港湾空港局の方は、経済人にもぜひ使っていただけるようにＰＲしていく必要があるんじゃないかなと思いますが、そういう点についてどのように考えているのか、２点お聞かせいただきたいと思います。最初は国際線とＬＣＣの件を含め、以上です。

○主査（小金丸かずよし君）旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長　委員にはふだんから空港に非常に力強い応援をいただき、ありがとうございます。

まず、3,000メートル化を迎えているところでございますけども、3,000メートル化の一番のメリットが出るのは、貨物がもちろん多いです。というのが、やはり3,000メートルになることによって、重い貨物を北米とか欧州まで運べるようになるところが大きいんですが、当然ながら旅客もチャーターとかで欧州とかにも結構飛ばしたことがあるんで、飛べることは飛べるんですが、選択肢が広がるという意味では旅客も、限定的にはあろうかと思います。

いずれにしても、今委員がおっしゃいましたように、まずは旅客便に乗ってもらって、路線誘致をどんどん広げていかないと、この空港の発展はないと思ってございます。

このため、我々としても、例えばターゲットを絞って、国際線でいくと出入国の客観的なデータがございますので、国が出しているデータを見ながら、どれぐらい日本とその国との動きがあるか、流動人口があるか、また、今までのいろんな航空関係業界の方のニーズもありますんで、そういう方からいろいろな情報をいただいて、積極的に路線誘致に行っているところではございます。

具体的には、3,000メートルなくても飛ぶんですが、東アジアがやっぱりどうしても流動人口が非常に多いんで、我々は今、まずは東アジアを中心にその先、一歩先、また、東南アジアなどを目指していきたいと思ってございます。欧州を諦めているわけではないんですが、やっぱりビジネスが一定程度必要というのが我々の認識でございます。

ＬＣＣですが、福岡県などが以前つくった将来構想でも、北九州空港をなるべくＬＣＣに誘導していこうというか、ＬＣＣを狙っていきましょうというお話がございます。福岡空港も混雑空港でございますので、勝手にＬＣＣは北九州空港だって振るのは難しいんですが、我々としてもＬＣＣは非常に重要と思っていますので、そういう動きをしているところでございます。

あともう１点、集客、特に圏域自治体の方、八幡西区ないしは遠賀４町の方々とか、福岡方

面を使っている方も多いかと思います。先ほどの何％というのも旅客量調査の数字かと思いますけども、実際にそういうのも表れてきております。

北九州市としても、圏域自治体に実際に営業に行っています。圏域の自治体の方々にぜひ北九州空港を使ってくれという話をしていますし、チラシ、ポスターができたらすぐに送っています。例えば、先ほどちょっとお話ししました各家庭へのポスティング、今年でも５回ぐらい圏域に、北九州空港は便利だというチラシを、普通に広報するんじゃなくて、各家庭に配る広報もやって、重点的に行っているところでございます。

経済界は非常に大事ですので、特に八幡西区方面の方の出張があるであろう企業さんにも実際に訪問して、お願いをしているところでございます。東京の企業さんにもお願いに行っています。こういうことはやっぱり非常に大事で、していかないといけないと思っていますので、引き続き、広い広報から地道なターゲットを絞った広報まで、ＰＲ営業を行っていきたいと思います。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）村上幸一委員。

○委員（村上幸一君）僕も北九州商工会議所、当時は新北九州空港推進協議会というのがあって、青年会議所にいるときにそこの団体に入って、いろんな企業団体の人たちと一緒にいろんな旅行に、飛行機に乗ったりとかしていたんですけど、最近、そういうのがあるのか分かりませんけども､僕も議員になってそういう関係が薄れてきたものですから分からないんですけど、地元で盛り上げることはすごく大事だと思うんですよね。さっきの話と重なるかもしれませんけども、そういったものにぜひ取り組んでいただきたい。

例えば、商工会議所でいけば中間市にもあります、遠賀町には商工会もあるわけですから、そういったところにもぜひＰＲしていただいて、僕は乗ることのメリットも必要だと思っているんですよ。何もなければ、福岡空港を使う人のほうが正直多いんじゃないかなと、理由は言いませんけども、私自身は正直思っています。だから、北九州空港を使う、もちろん気持ちの上で、みんなで応援しようということも大事ですし、何らかのメリットがあることもさらにそれを動機づける要因になると思いますので、そういったことも含めて、さらに旅客増に向けて取り組んでいっていただきたいと思います。

最後に、今福岡空港がなかなか北九州空港に便を回してくれないという話だったと思うんですが、であるならば、航空会社は民営会社ですが、福岡空港の会社と北九州空港を運営する会社を一体化させて、そこで飛行機の分担をさせるとか、そういったことまで考えることができるのではないかと。北九州空港の運営会社と福岡空港の運営会社を一体化するとか、そういった話は出ていないのか、あるのか、検討されているのか、あれば聞かせていただきたいと思います。

○主査（小金丸かずよし君）空港企画課長。

○空港企画課長　福岡空港との一体運営、連携についてお答えさせていただきます。

福岡空港からあふれる需要を取り込んでいくためには、福岡空港と北九州空港の一体運営というのも選択肢の１つにはなってこようかと思います。

一方で、福岡空港は今民間企業による管理運営という手法が導入されておりまして、一体運営については、北九州空港を運営するメリットを示して、民間企業の関心を高めていくことが重要じゃないかと考えております。

いずれにしましても、一体運営にかかわらず、まず、北九州空港自体の価値の向上といいますか、魅力を高めていくことに注力をしてまいりたいと考えております。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）空港企画部長。

○空港企画部長　空港企画課長の答弁に補足させていただきますと、村上幸一委員がおっしゃっているのは､関西空港と伊丹空港と神戸空港が三位一体で１つの会社が運営してございます。関西空港は国際便、伊丹空港は国内便、神戸空港はその中間の割合ということで、１社が３つの空港全体を運営するというのが大前提でございまして、先ほど空港企画課長が言いましたように、北九州空港は国管理空港でございますので、空港ビルの運営をやっていることでして、福岡空港は民間会社のＦＩＡＣが管理しています。そうすると、まずベースを合わせる必要があるので､北九州空港を国管理空港から民間の管理空港にする必要がございます。そのうちで、一体となって運営することができれば、委員がおっしゃるように一体運営ができるかなと感じてございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）村上幸一委員。

○委員（村上幸一君）そのために、港湾空港局長は国土交通省から北九州市に来ていただいているんで、局長、今の空港企画部長の意見に対してどのように。

○主査（小金丸かずよし君）港湾空港局長。

○港湾空港局長　制度的には今空港企画部長が申し上げたような制度になっていまして、そういった形で全体的な効率性を高めていくというのは選択肢の１つだと考えております。

ただ、民間における一体運営を目指すためには、まずはコンセッションを、もし国で公募していただいたときに民間が手を挙げていただけるよう、北九州空港の魅力を高めていくところが大事かなと思っています。今日いろいろ委員の皆様に御議論いただいた、まず空港の旅客を増やしていくこととか、空港自体にふだんから来ていただく、空港を目的に来ていただく、そういった意味でターミナルビルも含めて北九州空港全体を稼げる空港にしていくことが大事だと思っております。

ですので、まずは我々としましては、北九州空港の魅力、旅客を増やしていくとか、いろんな人に来ていただくということを頑張ってまいりたいと考えてございます。

○主査（小金丸かずよし君）村上幸一委員。

○委員（村上幸一君）ここにいるみんなが北九州空港の活性化を祈っていますので、ぜひ局長、よろしくお願いして、質問を終わりたいと思います。ありがとうございます。

○主査（小金丸かずよし君）質疑を続けます。鷹木委員。

○委員（鷹木研一郎君）午前中も出ておりましたけれども、私もベスタス社について伺いたいと思っております。

３月９日に経済産業省で覚書を交わしたということで、経済産業省の山田副大臣が、高市総理大臣のメッセンジャーとして最大限のサポートをしていきますという発言をされたと聞いております。３月10日に日本成長戦略会議がありまして、これから成長する有望な企業に対してかなりの投資をされるというニュースもあったんですけれども、私もこれはこの中に入っていると思っておりますし、そういったことを最大限利用して誘致活動をしていただきたいと思います。このベスタス社が仮に来るとなったときに、町の形がどう変わっていくのか、洋上風力発電、市民の方も大変興味を持っておりますので、まだ来てもないので、捕らぬタヌキの皮算用になってはいけないんですけれども、将来像がもし予測できるのであれば、まずそこを教えていただきたいと思います。

○主査（小金丸かずよし君）総合拠点利用促進担当課長。

○総合拠点利用促進担当課長　ベスタス社の進出に向けた将来像について答弁させていただきます。

委員がおっしゃられたとおり、経済産業省も最大限支援するというところで、我々もそこはすごく期待をしているところでございまして、誘致を実現したいと思っております。

仮に、ベスタス社が響灘に進出となりますと、これまで我々は総合拠点の中で製造産業拠点を目指しております。その中核となるのが海外メーカーとか、そういう部材メーカーでございまして、それによって、これまで海外から輸入していた部材とかがそこで製造されるということで、地元企業も参入できる形で我々も進めておりますが、そういう国内のサプライチェーンが進むものと期待しております。それによって、地元企業とか関連産業の雇用促進とか、波及効果は大きなものとなってくると思います。そういったところを我々も地元の活性化につなげていきたいと思っておりますので、響灘地区を中心として、洋上風力のさらなる総合拠点化という未来像に向けて推進してまいりたいと考えております。

○主査（小金丸かずよし君）鷹木委員。

○委員（鷹木研一郎君）そうなんですね、その波及効果が大変大切であると思っておりまして、もし来たらインパクトは大変あると思っておりますし、ポテンシャルも数段上がると思っておりますし、それを地元にどう還元できるかが大切であると思いますので、ぜひ力を尽くしていただきたいと思っております。

それと、ライバルは秋田市と室蘭市ということですけれども、この２つの都市に対して北九州市の優位性があると思うんですけれども、北九州市の優位性を教えていただきたいと思います。

○主査（小金丸かずよし君）総合拠点利用促進担当課長。

○総合拠点利用促進担当課長　他の候補地との北九州市の優位性についてお答えいたします。

北九州市はいろんな強みがございます。

１点目は、充実した港湾インフラがあると、基地港湾、それから、作業船基地もしかり、ひびきコンテナターミナルが直近でありますし、そういった港湾インフラが大変充実しております。また、その港湾インフラのすぐ直背後に工場建設可能な広大な産業用地を抱えているというところがございます。全国的にもなかなか土地がない中で、充実した港湾インフラのすぐ背後地に土地があることも強みであると思っております。

また、地理的優位性としまして、当然グローバルメーカーでございますので、日本国内の風車に向けた製造をしますが、東アジアを中心とした海外も視点に入れておりますので、そういった点では東アジアに近いところも地理的な優位性だと考えております。

また、ものづくりの町で栄えてきました北九州市でございますので、そういった製造過程におけるサプライで、そういったものを製造できる有力な事業者もいっぱいいますので、そういったところはほかにはない、これを総合的に全てを整えているのは北九州港だと思っております。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）鷹木委員。

○委員（鷹木研一郎君）今の話を聞くと、僕も必ず実現してくださると思っておりますし、将来のことを考えたときに、本当に実現しなくてはいけないと思っているんです。

それと、先ほど総合拠点利用促進担当課長から答弁がありました、ひびきコンテナターミナルの話も出ましたけれども、ひびきコンテナターミナルがＶ字回復できる可能性もあると思っておりますし、いろんな夢を乗せた、可能性を乗せたベスタス社の誘致であると思っております。

それと、ＡＩで見たんですけれども、北九州市はベスタス社とはずっといろいろ活動を続けているという話なんですが、デンマークの大使館ともきちんと連携を取ってということですけれども、このあたりはどうなんですかね。

○主査（小金丸かずよし君）総合拠点利用促進担当課長。

○総合拠点利用促進担当課長　おっしゃられるとおり、北九州市とデンマーク大使館で覚書を締結しておりまして、それは風車に特化したものだけではないんですが、ＡＩとか、いろんな環境面とか、その中に洋上風力も入っておりまして、デンマーク大使館とも、いろんな連携というか、意見交換とかも進めているところでございます。

○主査（小金丸かずよし君）鷹木委員。

○委員（鷹木研一郎君）知らなかったことなんで、心強いなと思いましたし、そういった流れもぜひ使っていただいてと思うんですけれども。

それと、国との連携が大変必要になってくると思っております。福岡９区から政権与党の国会議員も誕生しましたし、もちろん参議院、超党派でやらないといけないことだと思うんです

けれども、あらゆるパイプを使って、これは絶対に実現していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それと、もう１つ空港で、魅力向上ですけれども、先日、北九州エアターミナルの鮎川社長とも少し話をさせていただいたんですけれども、いろんな人に空港に来ていただくということで、航空機の写真マニアがかなり空港に集まるという話を聞いております。そのときに、写真マニアの人と話す機会があったんですけれども､防犯上もいろいろあるのかなと思うんですが、網があって、カメラを撮るときになかなか飛行機が撮りづらいという話を聞いたんです。すみません、聞いたままそのまま言っているんですけれども、空港の魅力の発信力ということであれば、そういった写真マニアの人を呼び込むのは、僕は大変いいことなんだろうなと思うんですけれども、網があって写真が撮りにくいとか、航空機マニアの写真の方からとか、今までそういった要望とかがあったりしたことはありますか。

○主査（小金丸かずよし君）空港魅力向上担当課長。

○空港魅力向上担当課長　旅客ターミナルビルの３階に展望デッキがございます。展望デッキはエプロンが見渡せる状況でございまして、保安の関係から格子状のメッシュの金網と、あとはアクリルボードを貼った透明なパネルを設置している状況です。

航空のマニアの方、特に愛好家の方が航空機の写真をよく撮りに来られます。その際に、望遠レンズがかなり大きいものですから、その網がちょっと邪魔になってしまうと、写真の画角の中に入ってしまうので、金網の穴を大きくしてほしいといったお声は受けたことがございます。穴を大きくしますと、そこから物を投げられたりといった保安上の問題があるので、そこは国とも協議していきながら、どこまで穴が大きくできるのかを今まさに検討を進めているところでございます。

ただ、そのほかとして、今までアクリルボードについては経年劣化で白ぼけていて、飛行機がよく見えないというお声もたくさんいただいております。それは一般の方々からもお声をいただいております。そういったところについては、今年度の魅力向上事業のこの予算の中で、透明な新しい新品のパネルと交換しまして、飛行機がよく見えるようにしている状況です。一般の方とマニアの方と求められるレベルが違うかと思いますけれども、多くの方に北九州空港を、航空業界を愛していただけるように、要望に極力応えていけるように努力してまいりたいと考えております。

○主査（小金丸かずよし君）鷹木委員。

○委員（鷹木研一郎君）すみません、何か個人的な質問になったんですけど、そこまで丁寧に答えてくださると思っていなくて、ありがとうございます。

航空機マニアの方はかなり発信力があると伺っております。いろんな空港で写真を撮るファンの方がいらっしゃるらしくて、ぜひ北九州空港も、そういったマニアがたくさん集まる空港になっていただきたいと思っておりますし、今日、空港魅力向上担当課長から聞いた答弁を、

私が聞いたマニアの方にもしっかりと伝えていきたいと思いますので、ありがとうございました。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）上野委員。

○委員（上野照弘君）今鷹木委員からもベスタス社について質問等がありましたけれども、僕もこれを市長質疑で武内市長の誘致実現に向けた力強い意気込みを語っていただきたいなと思っていますが、これは市長質疑でも発言したいなと思っています。

このグリーンエネルギーポートひびき事業が2010年くらいから何となくその名称が聞こえるようになってきて、2011年にはもうスタートして、先月、ようやく25基が本格的に運転を開始したということで、地元民としても非常に感慨深かったし、今もずっと若松に住んでいますから、しょっちゅうあの光景を見続けてきましたので、ぜひこれからも一大拠点としてどんどん成長していっていただきたいなと思っています。

また、2018年に響灘エネルギー産業拠点化推進期成会というメンバーの人たちでドイツのブレーマーハーフェンに視察に行かせていただきました。あのとき、ブレーマーハーフェンで見た景色が、ナセルがいっぱい置いてあったりとか、ブレードが置いてあったりとか、ああいう光景が若松で見られるんだなと大いに期待しているところでありますので、ぜひ頑張っていただきたいと思います。

それでは、数点お尋ねをさせていただきたいと思います。

まず、海岸メンテナンス事業と港湾メンテナンス事業と２つの事業がありますけれども、この内容について教えていただきたいと思います。昨年度比でありますけれども、この海外メンテナンス事業については、昨年、2,000万円あったのが、令和８年度は960万円ぐらいに半減しているわけでありますけど、その理由について教えていただきたいと思います。

次に、小型船の係留施設についてです。

昨年、福岡市の話ですけれども、福岡市の漁港でプレジャーボートがたくさん不法係留されていたというニュースがあって、最終的には12月に歴代の市の担当の人たちが５人も処分されたということになったそうです。昨年、北九州市はその小型船の係留施設では調査事業であったりとか、移転対策事業をやってくれて、令和８年度予算では対策事業で6,100万円の予算がついていますけれども、今年は小型船の係留施設はどのような対策を取っていくのかをお聞かせいただきたいと思います。

僕の日頃の肌感覚でありますけれども、北九州市の小型係留船施設は、需要と供給が全然見合っていないなと思っていますので、今年度の予算でその需要と供給を間に合わせることができるのかを聞きたいなと思います。

次に、みなと緑地ＰＰＰに関連してですが、一般質疑でもさせていただきましたし、市長からかなり前向きな御答弁をいただきました。人流にぎわいゾーンにある港湾緑地19か所を対象に基礎的な調査を行って、その結果を踏まえて民間事業者の意向調査を行うという前向きな御

答弁をいただいたわけでありますけれども、この調査とかサウンディングの費用は事務事業一覧の中ではどの事業に含まれているのか、どのくらいの予算をかけてやろうとしているのかをお答えができればいただきたいと思います。

それと、これも一般質疑に関連するんですけれども、調査、整備の観点なのか、若松南海岸通りの海沿いに港湾空港局が持っていると思う港湾事務所、港湾工事センターがあります。あそこも今多分物置程度にしか使っていないんじゃないかなと思うんですけれども、これからもあれを放置し続けるのかを聞かせていただきたいと思います。一般質疑の中でも触れたんですけれども、港湾工事センターの僅か数軒隣に水上警察署がありまして、そこの跡地が2,500万円で公募にかけたら8,400万円で売れるという、すごく人気のエリアでもありますから、その人気のエリアに、港湾空港局が持っている空きビル、物置にしか使わないようなものを置き続けるのは、地域のにぎわいづくりの観点からするともったいないんじゃないかな、もっといい利活用ができないかなと思いますので、今後、どう考えているのかというのがあればお聞かせ願いたいと思います。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）整備課長。

○整備課長　海岸メンテナンス事業についてお答えいたします。

この海岸メンテナンス事業は、昨年、2,000万円の予算を上げさせていただいておりますけども、これは具体的にピンポイントで小倉北区東港町の護岸の補修でございまして、令和８年度につきましては960万円上げさせてもらっておりますけども、これもこの東港町地区の護岸の工事、昨年度からの継続事業でございます。今回960万円上げたところで事業が完成するところでございます。それで、事業費としては下がっているところでございます。

港湾メンテナンス事業についてお答えします。

令和８年度の予定でございますけども、１つには新門司地区の阪九フェリーとの可動橋がございます。この可動橋の工事費、それから、新門司北地区にございます道路の補修工事でございます。それと、若松区響灘地区の岸壁の補修工事でございまして、あと響灘２号道路、響灘南11号道路の道路補修工事をやろうとしております。

以上でございまして、令和８年度の予算としては１億6,200万円でございます。

○主査（小金丸かずよし君）業務担当課長。

○業務担当課長　小型船係留施設対策事業、それから、旧洞海庁舎、工事センターの予定について説明させていただきます。

まず、小型船係留施設対策事業についてでございますけれども、北九州港の小型船係留施設につきましては、海洋レジャーの普及とともに全国的に無断係留が問題となっていた頃に、不法係留対策として整備したものでございます。平成７年から平成９年ぐらいに簡易な係留設備を約500隻分設置いたしまして、当時係留していた船を対象にして、許可制、有料制を導入したものでございます。これにより、平成５年に700隻を超えていた不法係留船は200隻にまで減少

したところでございます。令和７年７月の数字ですが、北九州港内の不法係留船は今165隻、河川を入れると200隻となっております。

小型船係留施設はもう今30年を経過したところで老朽化が進んでおりますので、施設を使用している方からの補修要望も非常に多くございます。ですので、同施設に空きがないというところで、使用できなくなっている施設の補修を行って、その都度公募を行っております。まず、今使っている方々に対して行う補修を優先させていただいて、あとは利用ができなくなっているところについては、手を入れて、ちゃんとできたところから公募していくというところでやっております。そういった状況の中で、今小型船係留施設は北九州港で11施設ありますけれども、令和７年度から補修による使用の可否、それから、経費についての調査を行っておりまして、令和８年度はまず令和７年度に調査ができなかった施設の調査、それから、令和７年度に調査を行った施設の中で補修を行う費用を計上させていただいております。これが合わせまして6,168万4,000円となっております。本事業によりまして、老朽化した同施設の補修を行うことで、収容隻数の拡大を図り利用ニーズに対応するとともに、適切な係留を促すことで、不法係留船の解消に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

それから続きまして、旧洞海庁舎の解体につきまして説明いたします。

港湾空港局の旧洞海庁舎は市と国が合築で建設しまして､昭和42年に供用開始しております。当初、北九州市港湾空港局の洞海営業所、それから、門司税関若松税関支署といったところが入居しておりましたけれども、建物の老朽化によりまして、市の事務所は若松区役所に移転、門司税関戸畑税関支署若松出張所につきましては若松の合同庁舎に移転が完了しているところでございます。現在、若松の海上保安部のみが検視室として一部を使っている状況になっております。

というところで、国の合意の下、令和９年度の解体工事を目指しまして、調査、設計、関係者調整を進めているところでございます。跡地につきましては、今、国、市双方で意向を検討しておりまして、今保留中になっております。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）計画調整担当課長。

○計画調整担当課長　みなと緑地ＰＰＰの活用に向けた調査検討の予算を令和８年度予算に計上しているかについてお答えいたします。

令和８年度は響灘東地区で現在進めている取組とか、人流にぎわいゾーンの港湾緑地を対象にした基礎的な調査を踏まえまして、ほかの港の先進事例調査、それから、民間事業者への意向調査、サウンディング調査を進めていく予定でございます。

これらの調査は、ほかの港の取組状況や民間事業者様の考え方などを直接お伺いする形で、直営での調査を予定しておりますので、予算については計上しておりません。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）上野委員。

○委員（上野照弘君）ありがとうございました。

小型係留船があと160何隻もあるということでありますけれども、僕が本当に思うのは、みなと緑地ＰＰＰの制度をしっかり活用して若松南海岸通りを整備することができれば、小型係留船の問題も併せて解消できるような、民間の力を借りて上手に取組ができるような気がしてならないんですよね。それがかなえば、多分港湾空港局としての負担も相当に減ると思いますし、一石二鳥みたいな感じもします。僕自身もこれからしっかり勉強していきたいと思いますし、僕も個人的にこういう制度があるんですけどと、個人間サウンディングといいますか、意向調査みたいなのをやっていきたいなとも思っていますので、引き続き、まずは響町の１件目をぜひ成功に導いて、２件、３件、４件とやっていっていただきたいと強い要望とさせていただきます。ありがとうございます。

○主査（小金丸かずよし君）ほかにないですか。菊地委員。

○委員（菊地公平君）まずは、港湾から数点伺いたいと思います。

１つ、今年、旧門司税関の補修工事の予算がついており、本当にありがとうございます。11月から着工になっているんですけど、もう雨漏りがしているので、早急に対応していただきたいなと、この辺のスケジュール感を１つ教えていただきたいと思います。

２点目、門司港、関門海峡花火大会対策事業で150万円と例年載っている部分があります。これは港湾空港局でどういう部分を担っているのか確認させてください。

この流れで、先ほどもあった「みなと」と「子ども」の未来づくり連携事業、また、北九州港市民ＰＲ事業、北九州港・みなとまちづくり事業、この辺の事業の内容を簡単に説明していただきたいなと思っております。

３点目、港湾施設マネジメント推進事業、こちらが投資と行政と、あと特別会計で３つ合わせて1.1億円が計上されているんですけど、先ほども多分説明があったかと思うんですけど、内容と、何で３つばらばらに計上しているのか、確認させてください。まず、３点お願いします。

○主査（小金丸かずよし君）業務担当課長。

○業務担当課長　旧門司税関の改修についての予定、それから、港湾施設マネジメントの推進事業についての説明をさせていただきます。

旧門司税関につきましては、明治45年に建設されておりまして、昭和初期まで税関庁舎として使用され、その後は民間倉庫として使用されていたところを、レトロ開発に伴いまして、復元工事を経て、平成７年３月から休憩施設として使用しているところでございます。

平成７年３月の供用開始後は、委員御指摘のとおり、いろいろ改修はしているんですけれども、最近雨漏りが激しいという御指摘もありまして、いろいろと問題があることから、今回、屋根の補修を実施することになっております。

スケジュール感でいきますと、令和７年度に設計を行いまして、令和８年度から令和９年度にかけて不具合箇所、屋根であったり建具であったり、あるいはトイレの洋式化、そういった

ものにも取り組む予定になっております。

工事に関しては、外壁を一遍にやると、中で営業しているところとかにも迷惑がかかりますので、影響が出ないように、ブロックを切って順番にやっていこうというところで、ちょっとお時間がかかりますけれども、順次やってまいりたいと思っております。

それから、港湾施設マネジメント事業につきまして説明させていただきます。

北九州市の港湾施設、設備は大体1,600ぐらいあるんですけれども、多くが高度成長期以前に整備されたもので、今後、老朽化がさらに進むというところで、維持管理、更新費の増大に対応するために、令和５年度に北九州港港湾施設マネジメント実施計画を策定し、施設の集約、利用転換の推進、それから、老朽化施設の計画的な改修、こちらの２つの方針の下、適切な施設の維持管理に取り組んでいるところでございます。

令和８年度は港湾空港局の所有する公有財産のうち、公共施設としての利用が見込まれない土地の民間への売却、それから、公共施設の利用転換を図るために必要な鑑定や測量を行うための予算を計上させていただいています。

３つあるんですけれども、まず、港湾施設マネジメント推進事業の行政につきましては、港湾空港局が所有している公有財産のうち、公共施設としての利用が見込まれない土地についての測量、調査等を行い、積極的に民間に売却していく、あるいは土地処分のための建物の解体処分も行うというところで、これは旧洞海庁舎の解体予算もこの中に含まれております。

それから、同じくマネジメント推進事業の投資につきましては、先ほどの話と同じですけれども、経理上、予算上、本市が一旦財産取得をして、民間に処分をする案件をこちらの事業で取り扱うことにしております。

具体的には、本市が管理している国有港湾施設の土地のうち、未使用のものを本市が借り受けて民間に売却するという事業としております。

港湾施設マネジメント推進事業の特別会計につきましては、これは地区の特性、それから、利用者の意見を踏まえた将来的な再配置の検討を行うという事業でありまして、地区ごとの再配置の計画の策定、それから、計画策定に必要な測量、利用者調整を行うところでございます。こちらについては、西海岸地区において検討を進めているところでございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）クルーズ・交流課長。

○クルーズ・交流課長　委員から事業につきまして何点か簡単に説明をとお伺いがありました。

まず、北九州市民ＰＲ事業の中に関門海峡花火大会、くきのうみ花火の祭典、海の日の記念事業の負担金が入っております。そして、委員から質問いただきました関門海峡花火大会観覧対策事業の150万円ですけども、現在、門司の２号岸壁が国の耐震工事の対象となっていまして、こちらが、以前は使えた場所が使えない、そしてまた、工事に伴って転落、事故等が起きない

ように安全対策という形で負担金を準備しております。

そして、「みなと」と「子ども」の未来づくり連携事業は新規事業になります。こちらにつきましては、関係局や下関市と連携したイベントの実施、そして、周遊していただくという形と、あとは海事人材の発掘に向けた事業を予定しております。

引き続きまして、北九州港・みなとまちづくり事業になります。

こちらにつきましては、門司みなと祭の際に帆船を呼んでいます。帆船を呼んで、体験航海や一般公開を行ったり、また、山口県の商船学校と連携して、船の体験航海を、小倉港を使って事業を実施するなどの予定が入っています。この中には、太刀浦コンテナターミナルの見学対応の費用も入れているものです。以上が質問のあった事業についてになります。

○主査（小金丸かずよし君）菊地委員。

○委員（菊地公平君）まず、改めて旧門司税関をしっかり直していただいてありがとうございます。

屋根の工事はもう終わっているんですかね。

○主査（小金丸かずよし君）業務担当課長。

○業務担当課長　屋根の工事はこれからでございます。

○主査（小金丸かずよし君）菊地委員。

○委員（菊地公平君）しっかり直していただいて、大分雨漏りして、雨漏りするとどんどん中が傷んでくるので、そうなる前に早めの対応をしっかりとよろしくお願いいたします。

２つ目の、たくさん聞いて申し訳なかったんですけども、特に門司港の文化的なところであったり、観光周遊的なところにかなり踏み込んで、いろんなお手伝いをしていただいていることに関しても改めて感謝を申し上げるんですけども、予算もそれぞればらばらで、それぞれどうなっているのかなというのが分からなかったので確認させていただきました。特に関門海峡花火大会が、ここのところなかなか、あれは全国でもすごい珍しい民間主催の花火大会なんですよね。でも、対岸の下関市は市が主体としてやっている。主体が全然違う中で、毎回花火のサイズだったり数だったりいろいろ比較されてという部分もあって、頑張りながら地元、民間でやっているところですので、単純にお金を出してくださいという話ではなくて、もうちょっとまちづくり、周遊、先ほどのナイトエコノミーみたいな話も関わってくるということであれば、花火大会も含めて、もう少し踏み込んで協力というか、一緒にできることを継続して検討していただけないかなということを要望だけ申し上げたいと思っています。

それから、港湾施設マネジメントに関しては大体内容は分かりました。公共施設マネジメントの一環という位置づけで、今後もしっかり続けていくことをお願いしたいと思います。

ここから空港に行きたいんですけど、新規航空路線支援事業が1.8億円になっています。具体的にどういったところに幾らぐらいという内訳を教えていただきたいと思います。

あとはもう１つ、空港アクセス事業と空港アクセス強化事業と同じような金額の事業があっ

て、これ何が違うのかを確認させてください。

あとは、航空物流支援事業に関して、予算がしっかり５億円ぐらいついているんですけども、ここについても内容を改めて教えていただきたいと思います。その３点をお願いします。

○主査（小金丸かずよし君）旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長　新規航空路線支援事業は1.8億円、１億8,700円から１億8,800万円ぐらいの事業でございますけども、このうち航空会社への支援などの金額が１億4,400万円程度、あと集客ＰＲ事業で4,200万円、これは国際線がメインの事業でございますので、仁川、清州、台北をターゲットにした事業でございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）アクセス・新技術担当課長。

○アクセス・新技術担当課長　アクセス事業について、推進事業と強化事業の違いについてお答え申し上げます。

アクセス事業につきましては、昨年の４月からエアポートバスの増便であるとか、朽網駅特急ルートの開設であるとか、そういったところを始めておりまして、始める前の状況もバスの支援であるとか、タクシーの支援であるとか、そういったものをするための費用として、アクセス事業9,670万円を計上しております。

それから、アクセス強化事業につきましては、昨年４月以降のバスの増便分、これはバスの増便で小倉線を４往復増やしたり、朽網線を13往復分増やしたりしておりますので、そのための運行支援金の増分、それから、朽網駅特急ルートに要する運行支援金といたしまして5,000万円、そういったアクセスのＰＲ、広報、あとは乗り継ぎ環境の改善とか案内強化の予算として900万円、そういったところの事業をアクセス強化事業で計上させていただいております。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）空港企画課長。

○空港企画課長　航空物流支援事業の内訳についてお答えさせていただきます。

まず、一番金額が大きいのが、重量助成といいまして、北九州空港を利用する貨物の重量に応じて物流事業者様に支援を行う事業ということで、これは今年度の６月補正で単価を拡充させていただいているところではあります。その単価を引き続いて採用させていただくということで、貨物事業が増えているところでございます、約3.5億円、３億4,500万円になっております。

それ以外には、航空会社への運航支援が6,100万円、空港で貨物を航空機に乗せたり降ろしたりするときに使用する機材の更新費用、車両の更新費用として6,700万円、今主なところですけど、そういった事業を行うこととしております。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）菊地委員。

○委員（菊地公平君）ありがとうございます。

新規航空路線に関しては、昨年というか、これまで常任委員会等々でも御説明があった内容

をこの予算に盛り込んでいるという理解でよろしかったですかね。

○主査（小金丸かずよし君）旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長　おっしゃるとおりでございまして、運航助成などが含まれてございます。

メインターゲットは、先ほど申し上げましたように仁川、清州、台北ではございますが、その他のチャーター便、国際チャーターと一部国内チャーター、こういった予算も入っていますが、メインは先ほどの３路線でございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）菊地委員。

○委員（菊地公平君）新規の路線、今は３つの空港という話だったと思うんですけど、新規の路線の拡充の予算はここには入っていないんですかね。

○主査（小金丸かずよし君）旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長　今年度も、例えば清州路線が飛んだときに補正予算を計上させていただいたところでございます。まず、国際チャーターから新規路線が入るときはチャーターというのが大きいと思いますんでチャーターを上げてございますが、決まったらそのときにまた御相談させていただく話になるかと思ってございます。以上ございます。

○主査（小金丸かずよし君）菊地委員。

○委員（菊地公平君）承知しました。しっかり新規路線を引っ張ってくるように頑張っていただければと思います。

空港アクセス事業は、タクシーの補助とかそういったものがメインで、強化事業がバスの増便分とか運営支援という、こういった理解で大体合っていますか。

○主査（小金丸かずよし君）アクセス・新技術担当課長。

○アクセス・新技術担当課長　そういった理解で大丈夫だと思います。

○主査（小金丸かずよし君）菊地委員。

○委員（菊地公平君）アクセスの話は、ちょっとまだ北側アクセスまで話は拡大してはないんですけども、そういった新規の検討の話とかは、どの予算の中で検討しているのか、もしあれば教えていただきたいんですけど。

○主査（小金丸かずよし君）アクセス・新技術担当課長。

○アクセス・新技術担当課長　新規の増便分のアクセスの予算でしょうか。

○主査（小金丸かずよし君）菊地委員。

○委員（菊地公平君）いえ、アクセス道路の件。

○アクセス・新技術担当課長　アクセス道路の検討につきましては、こういった予算では計上してございません。そういった新規のアクセス道路の検討は、都市計画道路の検討とか、そういったものを経ての話かなといったところで、まだそういった予算の計上というのは、令和８年度の予算ではしておりません。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）菊地委員。

○委員（菊地公平君）北側アクセスの話は条件が整っていないんで、まだ具体化はなかなかしていないというところではあるんですけど、現状、どこでそういったことは検討されていらっしゃるんですかね。

○主査（小金丸かずよし君）アクセス・新技術担当課長。

○アクセス・新技術担当課長　恐らく空港への新しいアクセス道路のお話だと思いますけれども、空港のアクセスといたしましては、そういった道路につきましては、長期的な検討課題の１つであると考えております。仮にそういった検討につきましては、都市計画の観点から都市のネットワークの議論が恐らく最初にあった上での構想、それから、具体的な事業化、そういった段階に行くものと認識しております。そのため、令和８年度予算の中では検討してございません。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）空港機能強化担当部長。

○空港機能強化担当部長　詳細は今課長から答弁させていただいたとおりなんですけれども、空港へのアクセスにつきましては、新規の鉄道、軌道系も含めまして、まだ外にいろいろ検討を出す段階ではないと考えておりますので、具体的な検討につきましては職員で直接いろいろ議論をしているところでございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）菊地委員。

○委員（菊地公平君）はい、分かりました。

今少しずつまた機運が高まってきている話の中で、東九州新幹線という話が動き出している部分があります。これは結構県も最近前向きに発言をもらっていたりするんですけども、東九州新幹線を考えたときに、北九州空港を経由していく路線もあると思うんですね。例えばそういった話というのは、空港の担当とか、そういった情報を入手したりとか、情報交換とか、何か動いている部分があるかなと思って、そこだけ確認させてもらっていいですか。

○主査（小金丸かずよし君）アクセス・新技術担当課長。

○アクセス・新技術担当課長　北九州空港の東九州新幹線を絡めた軌道系アクセスにつきましては、これまでも北九州空港を活性化させる、様々ある起爆剤の１つとして議論のそ上に上がっているものと認識しております。当然そういった観点から、今東九州新幹線につきましては、機運の醸成、整備要望等を都市戦略局で担当しておりまして、そういったところと意見交換をしながら、我々空港のアクセスとしてどういったことを考えていくかといったところの話をさせていただいているところでございます。

いずれにしましても、そういった議論を深めていくためには、まず東九州新幹線が日豊本線ルートで実現していく機運を高める努力も必要になってくるとともに、我々といたしましては、着実に空港の利用者を増やして存在感を高めるアプローチ、これが重要であると考えております。そのため、北九州市といたしましては、まずは朽網駅特急ルートとか、そういった既存の

鉄道アクセスの強化によりまして、利便性を向上させて、着実に航空旅客数の拡大を図っていく状況で今取組を進めているところでございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）菊地委員。

○委員（菊地公平君）ここからは要望という形にさせていただきますけども、恐らく片山副市長も東九州新幹線の期成会に北九州市の代表ということで参加していただいていると思います。いろんな議論があるんですけども、その中の１つとして、新幹線の空港ルートも１つ出てきているかと思いますので、その辺に関しては、もっと積極的に情報を取りにいっていただきたいですし、正直そこがつながればほとんど福岡空港と一体的な運用ができるようになるんじゃないかなと考えられますので、もう成田－羽田よりも圧倒的に短い時間で結ばれるということになりますので、そしたらもう福岡空港も今キャパオーバーになっていますけども、そこからあふれる特に海外便とかは北九州市中心に取れるんじゃないかなと、そういった考えもありますので、その辺をしっかり情報を取っていっていただきたいなと思っております。私からは以上です。

○主査（小金丸かずよし君）そのほか質疑はございますか。香月委員。

○委員（香月耕治君）私から意見を申し上げたいと思います。

洋上風力、先ほども出ましたが、経済産業省とベスタス社の契約締結が終わったということで、これは国策といいますか、カーボンゼロの目的に結ばれた契約だと思っています。ベスタス社との今後の交渉に関しては積極的に臨んでほしいと思っていますが、負担に関しては国におんぶにだっこというか、しっかりとそういう交渉を引き続きしていただきたいなと思っています。

というのは、洋上風力の採算性が悪いと実績として出ています。先日も三菱商事が500億円の損失を出して撤退いたしました。再生エネルギーということではソーラーもございますが、当初は１キロワット当たり42円、それが36円になり、今は10円以下ということで、この洋上風力に関しても当然今後、受入金額というか、それが考えられますので、今回の機会、どうなるか分かりませんけど、経済産業省との接点といいますか、しっかりと北九州市に頼んでおけば国際協約が何とか守れるというような関係づくりをする必要があるなということと、また、本市の経済発展にとっても2028年、2029年にはデータセンターができるという予定になっていますが、120メガワットの電力、それから、2029年には日本製鐵が高炉から電炉に変換するということで、同程度の電力の供給が必要だということで、これは九州電力との調整も必要なんですが、自前の洋上風力発電が絶対に必要になると考えていますので、今回の機会に国との関係をしっかりとつくっていただくということが絶対に必要だと、意見を申し上げます。

それから、空港に関しては、乗降客といいますか、インバウンド、アウトバウンド、なかなか増加するのが極めて難しい環境にあると思っています。本市は今政策的には九州の陸海空を含めた物流の拠点都市づくりということを目指しておりますので、乗降客も当然増やしていく

必要がありますが、物流を国際物流ということを心がけて増加させていくことでは、今までの情報の流れの中ではなかなかパリとの成約ができた、ロサンゼルスとの成約ができたというようなことは聞きませんが、北九州空港の名を世界に知らしめるということでは、私は名称の変更といいますか、北九州国際空港、これは制度の点がありますので、ぜひ局長に見解をお聞きしたいと思います。

○主査（小金丸かずよし君）港湾空港局長。

○港湾空港局長　御質問の御趣旨は、北九州空港の名前を北九州国際空港にするといったことだったと思います。

現在、北九州空港の管理は国の管理となってございますので、そういう意味では、名前を変えるということであればまずは国に要請していくことになろうかと思います。ほかの地方でも名前をいろいろ変えて知名度を上げていくということはやっておりますので、どういうやり方、御提案いただいた北九州国際空港という名前がいいのか、そのほかのやり方がいいのかとか、そういったことも含めていろいろと検討が必要なものと考えております。

○主査（小金丸かずよし君）香月委員。

○委員（香月耕治君）私は、北九州空港の名前を北九州国際空港に変えるということでは、大変各国に訴えるといいますか、九州に北九州国際空港があるということのネームバリュー、その代わりに今の受入体制、税関にしても、それから、いろんな路線の問題にしても、そういう大きな責任が発生すると思いますので、そういう九州の物流拠点のみならず、国際アジアの物流の拠点都市ということでぜひそういう考えでいろんな諸事業にまい進していただきたいと思っています。以上。

○主査（小金丸かずよし君）質疑を続けます。吉村委員。

○委員（吉村太志君）港湾空港局の皆さん、市民の皆さんのため、そして、北九州市のため、全力で頑張っていってください、応援しています。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）ほかに質疑はありませんでしょうか。緑の風、井上委員。

○委員（井上しんご君）それでは、質問させていただきます。

まず、洞海湾のマリーナ整備、小型船係留施設の件についてお伺いします。

本会議でも先ほども、これまでの委員会でも議論があっていると思うんですけども、市としてはマリーナ施設の整備はしないけども、民間活力であれば可能性があるというお話でした。

そこで、具体的に候補地を選定して公募をかける必要があると考えています。これまで議論があった、例えば若松区の久岐の浜であるとか、八幡西区の洞北緑地、西部斎場があるところ、戸畑の都島展望公園のそばのふ頭であるとか、また、八幡東区でいえば枝光松ヶ島港、東田緑地の周辺とか、非常に波も穏やかで、都市部に近いという部分で非常ににぎわいづくりとかにも資すると思うんですけども、自分が考えた４つの適地について、見解があれば聞かせてください。これが１点です。

次に、北九州空港魅力向上事業の件です。

ターミナル機能の充実、機能構築だけじゃなくて、暮らしや町の彩りと、魅力を引き出すエンタメスポット、観光スポットということで、先ほどもずっと議論があって、空港に来ることが目的という形で様々議論がありました。午前中も議論があった佐賀空港のキングダム空港のようなそういった部分、絡めて言えば、北九州空港の開港時は銀河鉄道999のメーテルのロボットがあって私も非常にすごいなと思ったんですけども、壊れて今はありません。北九州市がフィジカルＡＩをやろうと力を入れているということで、産業経済局でお話があっていました。今後、フィジカルＡＩメーテルの復活とか、佐賀空港であれだけできるということで、北九州空港もそういった部分でできないかについて２点目です。

それに絡めてですけども、飛行機の利用に限らず北九州空港に来てもらう方を増やすには、これまでもこの委員会でも議論があったと思うんですけど、例えばショッピングモールとか、福岡空港は今回店舗数を倍以上にする大規模なモールの設置を工事中だと聞いています。それで、北九州市もそういったショッピングモールの誘致を検討みたいなことも議論があったと思うんですけども、なかなか先ほど議論の中でも土地がないと、分譲地もないということで、苅田町が持っている分譲地も今交渉中で、新規の募集を止めているということです。一方で、またどんどん埋立てが進んでいますので、そういった部分での活用であるとか、空港南町の苅田側ですけども、今テトラポッドの置場になっている場所であるとか、緑地が結構あるような感じがします。あそこは仮置きだと思うんですけども、そういった部分も含めた土地の利活用を苅田町、県とも相談しながらやっていく必要があるのかなと思うんですが。

例えば、ジ・アウトレット北九州は初年度目標が年間800万人でした。実際どれだけ来たかというのは公表されていませんから分かりませんけれども、こういった大きなモールがあることによって、かなりの人の集客につながっていくんじゃないかと思うんですが、この点の見解を聞かせてください。

次、４点目です。空港アクセス鉄道の件で、先ほども議論があっていました。200万人を超せば検討に入るということで、2018年に178万人に行きましたけども、その後、落ちて、今大体120万人ぐらいだと思っております。やはりこの状況で実際空港の利用を増やすには結構時間がかかるんじゃないかなと思っています。そのときに、さっきのモールもそうですけども、そこも含めた空港島を１つの町としてつくるようなイメージでやっていくことと同時に、人に来てもらう、そこにアクセス鉄道も造ってさらにという部分での検討も必要かと思います。

先ほど菊地委員も言われていましたように、東九州新幹線、昔アクセス鉄道については高規格の新門司ルートか、曽根からのルートということで、新門司がいいということだったんですけども、当時はまだ東九州新幹線のアイデア自体もないという頃で、今回、東九州新幹線があそこを経由していけば、かなり魅力もありますし、仮にこれまで検討してきた新門司ルートについても200万人、300万人いればできるということでしたので、そういった部分での検討も今

からやっていく必要がある、新幹線が来れば一番いいでしょうけども、仮に新門司ルートだとしても、どうやったらできるのかということを、空港利用者が増えたから検討じゃなくて、もうそこをやる必要があると思うんですが、この点について見解を聞かせてください。

次、５点目です。空港貨物拠点化の件です。

北九州空港は貨物拠点化に頑張るというお話です。それで、福岡空港国際線ターミナルの付近もかなりの倉庫群が立地して、あそこは都市高速のランプの目の前で、九州道も近いということでかなり集積が進んでいると思うんですけども、北九州空港の貨物のいわゆる倉庫群は、私が見る限りはなかなか目につかないというか、空港島も土地もないということで、近隣にはトヨタ九州とか、ユニ・チャームとか、バイオマス発電所とか、三菱マテリアルとか、そういった工場系はあるんですけども、倉庫系がそんなにないと。北九州市側にもそういった倉庫を造るような土地もないように見受けられます。今後、こういった倉庫、貨物拠点化空港、倉庫があって、そこで物流で運んでいくという部分で考えた場合に、関門航路のしゅんせつ土砂の埋立地の土地を早く造って、そこにそういった倉庫群を造るであるとか、先ほど言ったモールとか利便施設を造るとかという部分でも、土地の利活用計画を早急に立てる必要があると思っています。

そこで、この空港を貨物拠点化するにふさわしい後背地の倉庫群をどこにどう造るのかについて見解を聞かせてください。

最後に、６点目です。

北九州港廃棄物海面処分場整備事業、環境局と港湾空港局が合同でされています。今、東地区のところがもうそろそろいっぱいになるということで、西地区もと。しかし、資材高騰でなかなか今受入れ制限とかをされていると環境局が言われておりました。合同でつくられた市の資料を見ると、環境局としては、整備する必要性は市民生活、物流、市内の産業活動を支えますと、一方港湾空港局としては、船舶の大型化に対応すると、港湾施設の健全化という部分での目的がそれぞれ書かれていました。埋立処分場とかごみ処分場の土地の利活用について、なかなか売れにくいとか、課題がある、大きな建物が建ちにくいということが言われていたんですけども、大阪万博もあそこはもともと夢洲という処分場で、しかし、大規模な建物が建って、今後、ＩＲのホテルなどもできるということで技術が進歩したのかなと思っています。

今後、こういったところを、今の埋立地の跡地利用とか、そういったものが含まれたときに、港湾整備特別会計では、そもそも整備したときの費用を土地の売却で補塡するという会計の仕組みになっているんですけども、こういった処分場についても、土地を売ることを想定して、活用することを想定して、工事の費用を捻出するというような同じ考えでいいのかどうか、見解を聞かせてください。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）今15時を回っておりますが、残り人数が少ないために、このまま続行したいと思います。ただし、執行部の方々でトイレ休憩等がおありの方は遠慮なく随時休

憩を取られてください。このまま続行させていただきたいと思います。計画調整担当課長。

○計画調整担当課長　最初の御質問にありました洞海湾での小型船などのマリーナの整備について、候補地を選定して公募をかけてはどうかということについてお答えいたします。

令和５年度に改定いたしました港湾計画におきまして、洞海湾の中の若松南海岸通り、それから、久岐の浜、この一帯を新たに人流にぎわいゾーンに位置づけるとともに、もともとタグボート等が利用しております若松南海岸船だまりを小型プレジャーボートも利用可能な小型船係留施設として使用できるよう計画を見直したところでございます。ですので、まず第１候補としましてはこちらが候補になるのかなと考えております。

委員御指摘の洞北緑地でありますとか松ヶ島につきまして、松ヶ島は既に小型船だまりがございますので、今後、公募する対象にはならないかなと思います。

公募につきましては、上野委員からもいろいろ御提案があっているとおりでございますけども、来年度以降、今後行うみなと緑地ＰＰＰの活用に向けた民間事業者への意向調査、サウンディング調査等の中でも、そういった視点も含めまして意向を確認していきたいと思います。

そういった中で、民間事業者がやってみたいという意向が示されましたら一歩前に進むのかなと考えております。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）空港魅力向上担当課長。

○空港魅力向上担当課長　空港の旅客ターミナルビルにおいて、ＡＩ、デジタルを活用して目的地化ができないかといった御質問に対しまして答弁差し上げます。

北九州空港においては、以前メーテルがインフォメーションのところにありまして、今現在、２階にフィギュア等を置いている状況になっております。ただ、これが他空港におけるアニメのキャラクターとのコラボに比べるとやはりインパクトがもう薄れているのかなと感じているところでございます。北九州市は様々な魅力あるアイコンとかコンテンツがありますので、今後、北九州空港といえば何だというような、１つのアイコンですとか、そういったものから空港を連想していただけるようなものが何かについては引き続き検討させていただきたいと思っております。

北九州空港をイメージできるものになりますので、そこについては皆さん、各関係者とも話をしっかりとしていきたいと考えているところでございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）空港機能強化担当課長。

○空港機能強化担当課長　空港島へのショッピングモールなどの誘致を苅田町側にというお話と、貨物拠点化を目指す上で倉庫群をどこにというところで、空港等の土地活用に関する２点お答えさせていただきます。

まず、ショッピングモール等の誘致ということで、午前中にも一度お話をさせていただきましたけれども、今現在、空港島、北九州市側でいきますと、活用できる土地が、公園などはないんですけれども、委員おっしゃるとおり、苅田側南側に、まだ実際上はしゅん工の土地にな

っていない部分が大半ではあるんですけれども、土砂の処分は完了したエリアがございます。ですので、将来的には、今関門航路のしゅんせつ土砂が投入されている新門司側の３工区というのがございますけれども、そこも含めまして、土地の将来的な活用について、国、福岡県、苅田町などと北九州空港の活性化、北九州市をはじめとする地域が発展するような土地活用ができるように検討を進めてまいりたいと考えてございます。

それと、倉庫群のところですけれども、こちらは今現在、北九州空港の空港施設の範囲の中に貨物地区というエリアがございまして、具体的にはヤマト運輸さんが使っている上屋の周辺を含むエリアなんですけれども、そこは土地の所有者は国になりますけれども、まだ事業者さんが進出できる余地がございますので、航空物流ということを考えたときに、空港施設に近接しておいたほうがよろしいかと思いますので、そういう活用ができる倉庫群の候補地は空港島の中にあると考えてございますし、先ほども申しました将来的な３工区といった活用できるエリアも考えられますので、そこも含めて、先ほどと同じになりますけれども、将来的な土地活用について検討を進めてまいりたいと考えてございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）アクセス・新技術担当課長。

○アクセス・新技術担当課長　空港アクセス鉄道新設の検討再開についての御質問にお答え申し上げます。

空港アクセス鉄道新設の検討に当たりましては、そのルートが将来にわたって持続可能で安定的に運営できるものとなるように、採算性の確保を含めて、現実的な課題を一つ一つ検証していくことが必要でございます。このようなことから、開港前の平成13年度より実現可能性の検討を始めまして、平成22年度に鉄道の規格やルートの異なる３つの採算性などを取りまとめました。委員が先ほどおっしゃられた新幹線のルート、それから、在来線のルートというのもこの中で検討されまして、取りまとめてございます。

その結果、最も採算性がよいとされる在来線新門司ルートでも、事業費は平成22年度当時で680億円となっており、このルートの採算性を検討するに当たりましては、航空旅客に加えまして、新門司途中駅の設置、それから、駅周辺の市街地開発を前提とする多数の通勤通学の乗降者、空港従事者等が利用をすることを想定しております。

このルートで採算上必要な航空旅客数は、鉄道事業者と国、地方自治体が仮に３分の１ずつを負担した場合でも300万人となっている一方、事業化の検討には一定の期間を要することから、航空旅客数が200万人を超えた際に検討を再開することとしております。

加えて、当時と比べて人件費等が大幅に高騰しているところから、鉄道の事業採算性を確保するために必要な航空旅客者はさらに増加していると考えております。

このような現実的な課題もありまして、当時の方針として定めた航空旅客数200万人の達成に至ることなく、直ちに検討を再開する状況にあるとは言い難いと考えております。

ただ、一方で、委員のお話にあったとおり、将来的な土地の活用等の検討も横に見ながら、

そういった状況を踏まえながら、空港アクセス鉄道の新設につきましては、従来から議論のそ上に上ってきた重要なテーマでありますことから、今後、様々な情勢を見極めつつ、将来にわたってどのように考えていくべきか、社会的、経済的、財政的状況など総合的な見地から、アクセスの在り方を含め、引き続き考えてまいりたいと考えております。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）総務課長。

○総務課長　最後に、廃棄物処分場に関する御質問にお答えいたします。

現在、環境局と一緒に響灘東で廃棄物処分場の整備を進めております。護岸の整備自体は港湾空港局の整備ということで、来年度予算にも約20億円計上させていただいているところでございます。護岸が完成しました後は廃棄物処分場として運営なされるという計画になっておりますが、その処分場の運営自体は環境局が主体でされるものと考えております。

数十年後に廃棄物の処分場が満杯になって、その跡地をどうするかにつきましては、現状で何も計画がありませんけども、私ども港湾空港局としては、埋立地造成特別会計と今まであった土地を売っていく特別会計自体は平成27年度に清算をして、三セク債の議論を午前中にさせていただきましたけども、そういう形になっておりますので、私どもとして特別会計であそこを運用するという計画には恐らくならないんじゃないかなと。

一方で、土砂処分場みたいなところで、整備が終わった後に分譲地として売っていくということになれば、分譲地は今一般会計で売っていますので、一般会計で売っていくということになると思いますし、例えばあそこに港湾施設を造る、ターミナルを造るとかということになれば、港湾整備特別会計で土地を買って運営するということになろうかと思いますけども、現状では埋め立てた後の計画は何もございませんので、現在としては恐らく一般会計でなされるんじゃないだろうかという想定になると思います。こういった答弁で御容赦いただければと思います。

○主査（小金丸かずよし君）井上委員。

○委員（井上しんご君）それでは、お伺いします。

小型船係留施設については、先ほど松ヶ島はもうずっといっぱいで、自分のところにも結構問合せがあるんですけども、空きがないということでお断りしているという感じです。そばの東田緑地の件で先ほどを聞きました。そういう状態がずっと続いているということもありますので、今議会は提案ぐらいしてほしかったなと思いました。ですから、方向性は一致しているということであれば、スピード感を持ってやっていってもらいたいということで要望しておきます。

それと、空港の土地の利活用の件です。

先ほども公園とか、あそこで大きな大規模公園があれば、フェスとか音楽イベントができて、そういった部分で音楽の分野でも効果があると思うんですけども、今後、空港島というのは関門のしゅんせつ土砂が出る限り、国の方針もあるとは思うんですけども、永遠に土地が増えて

くる場所とは思うんですね。ですから、空港利用者200万人で検討ということだけに縛られてしまっては、なかなか全体のスピード感が落ちるのかなと思っています。今後、あそこの土地をどう活用するのか、公園とか、苅田とも協議して、ほぼ天然のビオトープみたいになっていますけども、そこに緑地公園があればすばらしいと思いますし、イベントに使えるような、産業集積とか、ショッピングモールとかがあれば、鉄道の利用者も増えてくると思っています。ですから、今ちょうど東九州新幹線とかいろいろ議論がなっているさなかで、土地の利活用計画についても早急に方向性を示して、この空港島の将来、これから10年、20年、30年という長いスパンでどういう町をつくるのか、そのときに鉄道は絶対必要なインフラだと思っていますので、検討を進めていってもらいたいと思います。これ１点聞かせてください。

それと、埋立地については、埋め立てた後はまだ決まっていないということで、実際埋め立てた場所も、これまでひびき灘開発が分譲していますけども、将来の利活用もある意味含まれて、どこに埋め立てるかという部分も大きなくくりでは検討されていると思っています。その土地が生きるということは非常に大事になってくると思いますので、どの場所に造ることが、将来生きてくるのかという部分でも、ぜひ港湾を知っている港湾空港局がイニシアチブを取って、売れる土地の場所につくっていくという視点が必要かと思うんですが、この点を再度答弁お願いします。以上です。

○主査（小金丸かずよし君）空港機能強化担当課長。

○空港機能強化担当課長　空港島の土地利活用ということで、先ほどもアクセスの答弁を申し上げましたとおり、そういった状況も踏まえながら、将来の空港島の土地活用について、国とか福岡県、それから、苅田町と私ども北九州市で検討を進めてまいりたいと考えてございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）総務課長。

○総務課長　処分場の跡地の売れる土地の場所という御質問ですけども、一義的には目的は処分場の整備ということですので、いかにこの処分場を安く早く造れるかで、市民の方から排出された最終処分の灰がどういったルートで、市民生活にできる限り影響がないようなところでルートを取るかとか、そういった廃棄物処分場の運営として考えるのがまずは第一義だと思います。

その後、埋め終わって出来上がった土地について、どういった利用方法があるかについては、これまでの経験を生かしながら関係局と連携を図ってとか、情報共有を進めるとかは十分に考え得ることだと思います。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）時間となりました。日本維新の会、松尾委員。

○委員（松尾和也君）よろしくお願いします。

僕からは２点お伺いしたいと思います。

まず、空港受入体制強化事業、地上支援業務従事者不足の解消を目的にということが書いて

あります。これは前年度と比べて少し予算が抑えられているようでありますけれども、その人員不足というのは解消方向に向かっているのかと受け取ったんですが、これの現状を教えてください。

そして、２点目、北九州空港の中の飲食店のことを聞きたいんですが、羽田空港に昔、卵かけ御飯の専門店がありました。理由が分からないですが、今はなくなっています。私がよく利用していた頃は、５人、６人待っているのが当たり前という人気店だったんですけど、卵かけ御飯であるから回転が物すごく早いんですね。だから、これぐらい待っていても、ちょっと並んだら食べられるということで大変便利がよかった。そして、ちょうど北九州空港から乗って羽田空港第１ターミナルを降りると、東京に出ようと思って浜松町のモノレールに行くその道すがらにあったりして非常に便利がよかったんですね。僕はその卵かけ御飯が北九州空港に非常になじむと思っているんですよ、これぜひ検討していただきたい。今そのお考えがあればお聞かせいただきたいのと。

北九州空港は、苅田町にまたがっていると聞いています。その苅田町には、苅田白川米ですかね、非常においしい現地の米もあると聞いています。そういうところのお米も出してもらってとか、そういったことは卵かけ御飯ができるんじゃないかなと思っていますので、ちょっと卵かけ御飯のお店を検討されたらどうか。

いや、本当においしくて、メニューが限られているのがいいんですよね。卵かけ御飯にしますか、卵丼にしますかぐらいしか選択肢がなくて、話が早いんですよ。だから、本当に回転がよくて、いいお店でした。ですから、この２点お願いします。

○主査（小金丸かずよし君）旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長　空港受入体制強化事業でございます。

こちらは、航空機の運航に欠かせない地上での支援業務も行う事業者、いわゆるグランドハンドリング事業者さん等になりますけども、こちらの人材確保に向けて、新しく従業員を雇用した場合に支援するパターンと、働きやすい職場環境の整備に係る支援を行うものでございます。こちらを昨年度も特に新しく従業員を雇用した場合の支援を行ってございます。現状、本日お話ししましたけども、グランドハンドリング事業者さんは、完全に足りているとは言えないんですけども、この予算も利いて、今の受入れはできる状況でございます。

グランドハンドリング事業者さんと話す中で、我々は新たな路線誘致をしていかないとと考えてございますが、もうそれはどうにかやりますよという心強いお言葉、全ての事業者さんに全て聞いたわけではないんですが、オール北九州で頑張っていただこうというお気持ちはいただいていますので、引き続き頑張ってまいりたいと考えてございます。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）空港魅力向上担当課長。

○空港魅力向上担当課長　旅客ターミナルビル内における飲食店についての説明をさせていただきます。

今現在、旅客ターミナルビル内に、３階にはレストラン３店舗、そして、２階には喫茶が１店舗ある状況でございます。飲食店については、限られた利用者、来館者は約180万人ですけれども、そのお客様が対象になるということでございます。３階にあるレストランですけれども、昨年３月にオープンしておりまして、それまでは長らく休業していたという状況でございます。なかなかお客様が昼間の時間帯にいらっしゃらないとか、夜、特にアルコールを提供する時間になりますと、北九州空港に戻られたお客様がそのままバスに乗ってもうすぐに帰られてしまうとか、そういったことがございまして、なかなか収支を取ることが難しいということで、テナントを誘致する際にも大分各社に当たって、かなり多くの事業者さんからなかなか経営が難しいという判断をいただいているところでございます。

ただ、利用者の方々からすると、たくさんの地のものを扱うお店だとか、すぐに食べられる、待たずに、短時間で提供できるといったところは魅力になるかなと考えているところでございます。

今後も、テナント、飲食店はしっかりと継続して運営していただきたいと考えておりますので、その中で、こういった委員からの御提案もありましたので、そういったところ、ビルを運営している北九州エアターミナルとも共有して、しっかりとしたサービスが提供できるように連携をして情報提供はしてまいりたいと思っております。以上でございます。

○主査（小金丸かずよし君）松尾委員。

○委員（松尾和也君）ありがとうございました。

受入体制強化に関しては、複数回、回答させてしまったんですけど、僕がちょっと聞き逃したかもしれないですが、状況はよく分かりましたので、ありがとうございます。

それで、テナントの件、卵かけ御飯の件ですが、卵かけ御飯はお酒を出さなくてもいいし、非常に弱点がないようなアイデアだなと僕は結構自信があるんですけども。空港で時間を潰したい人もいれば、時間がないけど、何か取りあえず食べて乗りたいよねという人もいらっしゃると思うんですね。卵かけ御飯というアイデアを検討していただくと言っていただいたんで、必ずターミナルビル管理会社とお話をしてほしいなと思います。

最後に要望しますが、北九州空港は早めに空港に着いてしまったときに、なかなか潰しが効かないなと思うことがあって、マッサージ屋とかがないんですよね。だから、30分コース、60分コースってマッサージは時間の逆算がしやすいので、例えば向かっている途中にもう電話で予約して、羽田空港のラフィネで早く着きそうだからと逆算しながらできちゃったりすることが北九州市でもできるように、マッサージ屋さんは北九州空港と親和性があると思いますので、これもまた御検討ください。よろしくお願いします。

○主査（小金丸かずよし君）答弁はよろしいですか。

ほかになければ、以上で本日の議案の審査を終わります。16日は午前10時から市長公室、総務市民局、市議会事務局及び行政委員会事務局関係議案の審査を行います。本日は以上で閉会

いたします。

令和８年度予算特別委員会　第１分科会　主　査　　小金丸かずよし　㊞

副主査　　大久保　無　我　㊞